

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

- ① 学生の確保の見通し 1 頁
- ② 学生確保に向けた具体的な取組状況 1 0 頁

(2) 人材需要の動向等社会の要請

- ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
. 1 2 頁
- ② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること
の客観的な根拠 1 3 頁

- 【資 料】 1 5 頁

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

大学全体の入試状況

直近10年間の入学試験の動向を振り返ると、平成23(2011)年度の3,176名の志願者数をピークに、若干の増減はあるものの年々志願者が減少し、平成27(2015)年度には2,045名に、受験者数を合格者数で除した実質倍率は1.24倍にまで低下した。そうした状況を改善するため、地域の課題解決に取り組む「地域連携室プログラム」や、高度で多様な文章表現力を身につけ表現することで社会に貢献する人物を養成する「文藝塾プログラム」など全学横断型の学習プログラムを創設し(資料1)、その取り組みの広報活動を強化した。他にも、推薦入試における入学前学習の位置付けを強化した育成型入試の開発や、入試機会の増設などの入学試験改革を行なった。その結果、志願者は、翌平成28(2016)年度に3,002名、平成29(2017)年度に3,236名へと回復した。また、大学教育の質的転換が問われるなか、学位課程ごとの教育の充実・強化を図るため、社会学部・教育学部の開設を平成30(2018)年度に行なった。それと機を同じくして、アクティブ・ラーニングなどに対応する高機能教室や学生が自由に利用できるラーニングスペース等を確保した新教室棟「慶聞館」を整備した。その結果、志願者は、平成30(2018)年度に6,503名、平成31(2019)年度に7,217名へと大きく増加した。この間、入学定員の厳格化の動きを追い風としつつ、社会的な要請に積極的に応える継続的な改革への取り組みにより、4カ年連続で志願者数を増加させることとなった。(資料2)。

歴史学科と文学科の入試状況

歴史学科については、平成23(2011)年度の549名の志願者数をピークに、年度により増減を繰り返しながら平成27(2015)年度には374名、実質倍率は1.16倍に低下した。その後、大学全体の動向と同様に、平成28(2016)年度に537名、平成29(2017)年度に531名へと回復。平成30(2018)年度には893名、翌平成31(2019)年度に995名と志願者数を伸ばしている(資料3)。

文学科についても、平成23(2011)年度の391名の志願者数をピークに、年度により増減を繰り返しながら、平成27(2015)年度に254名、実質倍率1.22倍となった。その後、平成28(2016)年度に420名、平成29(2017)年度に442名、平成30(2018)年度に739名、平成31(2019)年度に903名へと4カ年連続で志願者数を伸ばしている(資料4)。

本学開設以来の伝統を持つ歴史学科と文学科については、従来より安定的に志願者を集めてきたが、上述のとおり平成24(2012)年度から平成27(2015)年度にかけて志願者の

減少がおこったが、平成 30（2018）年度の新学部開設に伴い実施した新コースの開設による多様な学びの形を提供することにより、志願者数を延ばすことが可能となった。

定員の充足状況

平成 27（2015）年度からの 5 カ年の入学定員充足状況をみると、平成 28（2016）年度までの 2 年間、全 9 学科中 5 つの学科で入学定員未充足の状況であったが、志願者の増加とともに平成 29（2017）年度以降に改善。平成 30（2018）年度には、文学部真宗学科、哲学科、国際文化学科の入学定員を各 10 名ずつ減じ入学定員の適正化を図るとともに、社会学科、人文情報学科、教育・心理学科を発展的に統合して独立した社会学部と教育学部へと改組した。本学における社会学科と教育学科の露出度が格段に上がるとともに、文学部の既存学科についても志願者に選択される機会が増えた。これらの取り組みにより、平成 30（2018）年度には、入学定員の厳格化の方針により特に合格者を絞った文学科を除くすべての学科において入学定員を充足した。また、平成 31 年度（2019）年度については、同様に入学定員の厳格化の方針により特に合格者を絞った仏教学科を除くすべての学科において入学定員を充足した。

※歴史学科と文学科の平成 27（2015）年度以降の 5 カ年の入学定員充足状況については、上述のとおり、平成 30（2018）年度文学科を除き、入学者は安定的に確保しており、未充足はない（資料 5）。

資料請求・オープンキャンパスの参加状況

志願者数が直近で最も低下した平成 27（2015）年度以降の資料請求の状況をみると、1.1 倍から 1.4 倍の勢いで毎年資料請求者が増加している。平成 30（2018）年度の総資料請求者数は 73,448 名で、これは平成 27（2015）年度の資料請求者数の約 2 倍に相当する。

資料請求者数の順調な伸びとともに、オープンキャンパスの参加者数も増加している。平成 30（2018）年度の参加者数は 3,634 名（保護者を除く）で、平成 27（2015）年度と比較して約 1.5 倍となっている（資料 6）。

資料請求者やオープンキャンパス参加者数が継続して増加していることに加え、平成 30 年度高校 1 年生の資料請求者数微減を除き、高校 1 年から 3 年の各学年において 4 カ年連続して増加している。このことは、数年にわたって志願者を維持・増加させる基盤をもつ証左と考えている。高校 1 年生への募集広報の強化や地域ごとのアプローチを推進することにより、志願者を恒常的に確保していきたいと考えている。

京都地域における文系学部学科の志願動向

平成 27（2015）年度から平成 30（2018）年度の過去 4 カ年の京都地域私立大学の歴史学系学科・文学系学科の志願動向を見てみると、一貫して増加傾向にある。

代表的な歴史学系学科は、7 大学 9 学科が存在し、年度により増減はあるものの、合計

数として募集人員・志願者数・志願倍率ともに継続して増加している。平成 30 年度の志願者 14,172 名は、平成 27 年度の 1.3 倍となっている（資料 7）。

また代表的な文学系学科は、5 大学 5 学科が存在し、こちらも年度により増減はあるものの、合計数として募集人員・志願者数・志願倍率ともに継続して増加しており、平成 30 年度の志願者 6,895 名は、平成 27 年度の 1.3 倍となっている（資料 8）。

歴史学・文学という学問分野を学ぶにあたって、千年の歴史をもつ歴史都市であり、史跡や資料が身近に豊富にある“京都”という環境を選択する志願者は、従来から多くあり、さらにその希望者が増加していることがうかがえる。

平成 36（2024）年度の近畿地区 18 歳人口予測と学生確保の見通し

本学の地域別の志願割合は、近畿地区で約 80%を占めている。その近畿地区の志願者総数のなかで、滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県の志願者が約 95%となっている。また入学者の割合をみても、近畿地区で約 80%、近畿地区からの入学者総数のなかで、滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県の入学者が約 95%となっている（資料 9）。本学における志願者・入学者は、滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県に大きく依存する構造となっている。

上記構造を前提に、近畿地区における今後の 18 歳人口の動向をみると、平成 36（2024）年度に直近の底が訪れ、その後、一旦微増するもその後減少し、平成 42（2030）年度には 2018 年度の 85.9%となることが予想されている（資料 10）。また滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県に絞って 18 歳人口の動向をみても、平成 31（2019）年度の 174,682 名に対し、平成 36（2024）年度 155,510 名（対 19 年度比 89%）、平成 42（2030）年度 153,012 名（対 19 年度比 87.6%）と減少していく（資料 11）。

これらの状況をふまえ、本学の志願者・入学者において主要な位置づけをもつ滋賀・京都・大阪・兵庫の 2 府 2 県について、シミュレーションをおこなった（資料 12）。平成 30（2018）年度と平成 31（2019）年度の 2 府 2 県ごとの 18 歳人口に占める本学志願者の割合の平均をだし、平成 32（2020）年度以降の 18 歳人口予測数に乗して、今後の志願者数を予測した。その結果は、一旦の底をむかえる平成 36（2024）年度で 4,776 名、平成 31（2019）年度 5,441 名の 87.8%、665 名の減少と計算された。平成 42（2030）年度には 4,629 名、平成 31（2019）年度の 85.1%、812 名の減となる。2 カ年の実績をもとに単純計算した結果であり、また志願者数や入学者数は、社会・経済の動向や多岐にわたる要因により左右されるものではあるが、現状の教学改革や募集活動などの取り組みを向上させる努力を積んでいくことにより、4,800 から 4,600 名の志願者を維持することができると考える。

学部新設・コース設置などの改編による継続的な志願者や資料請求者・オープンキャンパス来場者の継続的な増加、京都地区における歴史学系学科・文学系学科の志願動向の向上、さらにシミュレーションによる長期的な志願予測等を踏まえた結果、歴史学科の 5 名、文学科の 8 名の定員増をおこなったとしても、長期的・安定的に学生の確保ができると考えることができる。

定員超過率が0.7倍未満の学科の定員未充足の原因と定員設定の合理性について

【九州大谷短期大学 福祉学科】

福祉学科の定員未充足の原因と定員設定の合理性

福祉学科は、平成11（1999）年度に開設し、九州大谷短期大学の中核をなす学科として介護福祉士の養成に励んできた。しかしながら、18歳人口の減少に伴う短期大学進学者の減少、特に介護福祉系の職場からの離職傾向等様々な要素が重なり、慢性的な学生募集状況の悪化を招いている。過去5年間の定員超過率についても未充足が続き、現行の入学定員35名の過去5年間の平均定員超過率は、0.47倍（資料ア）、オープンキャンパス参加者も減少傾向となっている（資料イ）。

これに対し、平成31年度から入学定員を35名から20名に減員し入学定員の適正化を図っており、今後の動向を注視したい。

学生確保についての具体的な取組状況

我が国は、高齢化に伴う介護事業の必要性が課題とされている。福岡県でもその重要性は指摘されており（資料ウ）、2025年には福岡県の人口減少と相まって、65才以上の高齢化率は30%を超えるとされている。本学の位置する筑后市近隣の高齢化率はさらに深刻な状況が予測され（資料エ）、それを裏付けるかのように、近隣の福祉関連施設からの求人数は年々増加（資料オ）している。

福祉学科の就職希望者のほとんどは、専門職として福祉・介護現場に就職するが、過去3年間就職率100%を維持しており、需要の高さを表している（資料カ）。

これらの社会的ニーズを背景とし、福祉関連施設との連携を進めつつ、受験生・高等学校への進路ガイダンスを強化していく。また新奨学金制度の導入などの学生確保のための強化策については、後述する。

【資料ア】福祉学科の志願者・入学者等及び定員超過率の推移

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年 ^{見込み}
入学定員	(人)	35	35	35	35	20
志願者数	(人)	24	20	15	13	8
受験者数	(人)	24	20	15	13	8
合格者数	(人)	24	20	15	13	8
入学者数	(人)	24	18	15	12	8
定員超過率	(倍)	0.68	0.51	0.42	0.34	0.4

【資料イ】福祉学科のオープンキャンパス・入試相談会参加者数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	参加者(人)	参加者(人)	参加者(人)	参加者(人)	参加者(人)
福祉学科	36	36	34	38	19

【資料ウ】福岡県人口ビジョン地方創生総合戦略（将来人口）（平成27年12月福岡県）

（４）このままの状況で推移した場合の将来人口

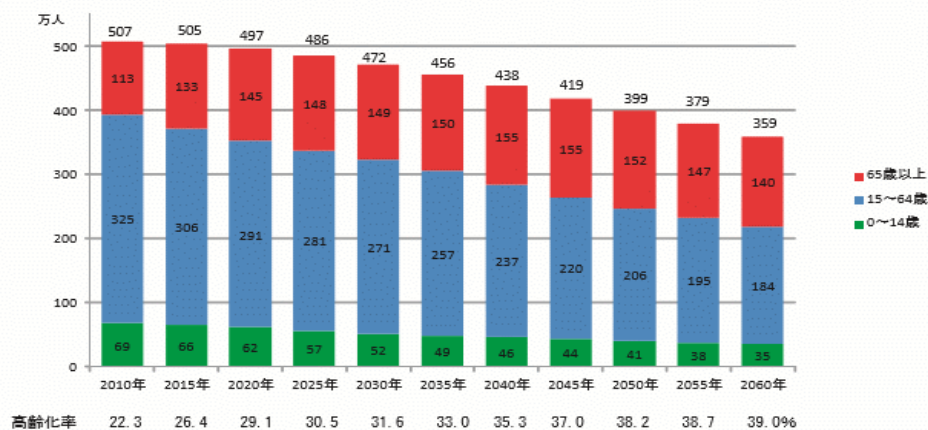
- このままの状況が続いた場合の本県の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠すると、2060年には359万人になると推計されている。
- 人口減少は後年になるほど加速し、現在より3割も少ない人口になると見込まれている。
- 人口は総数の変化に留まらず、高齢化率も4割に近づき、その構造が大きく変容することとなる。

① 社人研推計準拠（課題となる人口総数の減少と構造変化）

本県の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠すると、このままの状況が続いた場合、本県の人口は減少し始め、2060年には359万人になるとされている。年齢区分別では、年少人口、生産年齢人口の減少が大きく、老年人口は2045年頃まで増加したのち減少に転じる。

人口減少は、後年になるほど加速し、現在より3割も少ない人口総数になると同時に、高齢化率も4割に近づくと、その構造が大きく変容すると見込まれる。

図表1-(4)-1 本県の将来人口推計（社人研推計準拠）



資料：内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局「社人研推計準拠」

【資料エ】福岡県人口ビジョン地方創生総合戦略

(広域地域振興圏の現状の施策の方向性) (平成27年12月福岡県)

Ⅲ 広域地域振興圏の現状と施策の方向性

⑩八女・筑後圏域 (八女市、筑後市、広川町)

1 現状分析

(1) 人口構造

総人口、年齢3区分別人口と県内に占める割合

八女・筑後圏域	域内人口 (人) (A)	割合 (%)	(参考) 全県人口 (人) (B)	割合 (%)	対全県 シェア(%) (A)/(B)
域内人口(人)	134,337	100.0	5,092,513	100.0	2.6
年少人口	17,764	13.2	684,810	13.4	2.6
生産年齢人口	76,937	57.3	3,103,621	60.9	2.5
老年人口	38,846	28.9	1,268,659	24.9	3.1

「福岡県の人口と世帯」による2014年10月1日人口

※割合の合計が100にならないのは、年齢不詳分のため

総人口は約13.4万人で、県全体の2.6%を占める。

県平均に比べ、年少人口、生産年齢人口の割合がやや低く、高齢化率は約29%と高くなっている。

【資料オ】九州大谷短期大学福祉学科求人受付状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	求人数	求人数	求人数	求人数
福祉	248	316	336	341

【資料力】九州大谷短期大学福祉学科就職決定率

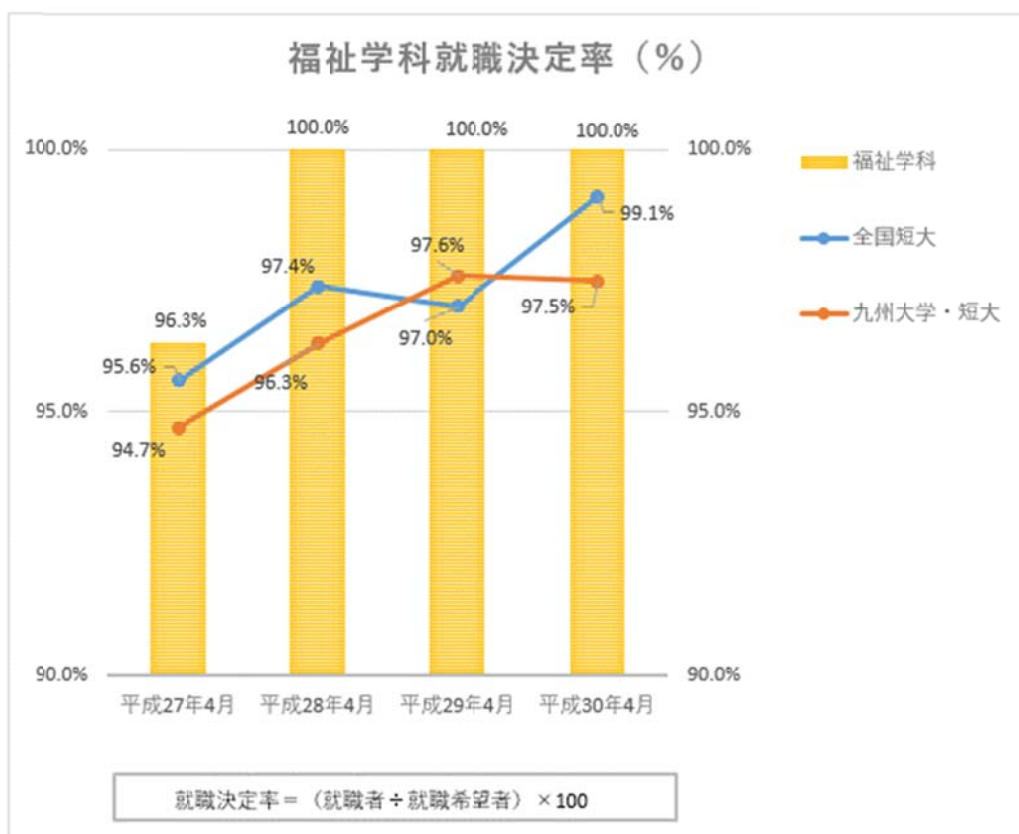
就職率

	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月	平成30年4月
全国短大	95.6%	97.4%	97.0%	99.1%
九州大学・短大	94.7%	96.3%	97.6%	97.5%
福祉学科	96.3%	100.0%	100.0%	100.0%

【根拠データ】

大学等卒業生及び高校卒業者の就職状況調査（文部科学省 平成30年5月18日）

九州大谷短期大学進路調査



イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【資料 1】 地域連携室パンフレット、地域連携室規程、文藝塾規程

平成 27（2015）年度から取り組んだ改革の 1 つである地域連携室のプログラムを紹介したパンフレット（2016 年度版）。また地域連携室、文藝塾を 2015 年度に設置した際に策定された規程。

【資料 2～4】 大谷大学の過去 10 年間の入試状況

入試統計データをもとに、大学全体、文学部歴史学科、文学科の平成 22（2010）年度から平成 31（2019）年度の 10 年間の入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者について、本学がグラフにして可視化したもの。

【資料 5】 5 カ年における入学志願状況

入試統計データをもとに、志願者数が直近で一番減少した年度である平成 27（2015）年度から平成 31（2019）年度までの全学部学科の入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者を大学で一覧表にしたもの。学科ごとの入学定員超過率を明記し、1.00 を割った箇所については赤字で示してある。

【資料 6】 資料請求者・オープンキャンパス来場者数の推移

入試統計データをもとに、志願者数が直近で一番減少した年度である平成 27（2015）年度から平成 31（2019）年度までの 4 年間について、大学がのべ数で一覧表にしたもの。

【資料 7～8】

当該大学が大学ホームページ上で公開している数値をもとに、大学で作成したもの。

【資料 9】 高校所在地ごとの志願状況、入学状況

入試統計データをもとに、所属する高校の住所地別に大学で集計をしたもの。通信制高等学校の場合、高等学校の本拠地がある住所地に集約されるため、受験生の実際の住所地と異なる場合がある。

【資料 10】 リクルート進学総研「18 歳人口予測」

平成 31（2019）年 1 月にリクルート進学総研が発表した、18 歳人口予測のマーケットレポート（リクルート進学総研ホームページ上で公開されているリ

ポート)。18歳人口の概算については、文部科学省平成30(2018)年度学校基本調査(速報値)をもとに、18歳人口は、3年前の中学校卒業生および中等教育学校前期課程修了者数から算出されたもの。

【資料11】滋賀・京都・大阪・兵庫2府2県の18歳人口予測

資料10、リクルート進学総研18歳人口予測のマーケットレポートから、当該府県のデータを抽出し、大学において作成したもの。

【資料12】2018・2019年度志願者実績をもとにした滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者数シミュレーション

資料10、リクルート進学総研18歳人口予測のマーケットレポートから、当該府県のデータを抽出し、大学において作成したもの。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金の設定額については、平成23年に策定したグランドデザイン(平成24年度ー平成33年度)の「管理運営方針」で示した「学長のリーダーシップのもと、教職協働体制を維持強化し、迅速な意思決定を行える体制を構築する。また、大学経営・運営における戦略策定やその遂行に力を発揮することができる教職員を育成するとともに、増収による財政基盤の安定を図る」を踏まえて、総合的な判断から設定している。

平成14年度以降、本学の学生納付金は据え置きのまま値上げをひかえてきた。平成30(2018)年度の新学部設置にあたって、多様な教育を実現するために必要なスタッフの配置(人件費率)、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備計画にともなう施設費の改定を考慮し、近畿圏の競合大学の実情との比較を行い、学部ごとに帰属収支のバランスがとれるよう授業料の再設定をおこなった。

定員増をおこなう平成32(2020)年度については、現行の学生納付金額を維持する予定である。

京都地域の同一学部学科を持つ私立大学の学生納付金の状況、文部科学省が公表している平成29年度の学生納付金調査結果と比較してみても、大きくかけ離れている金額ではなく、学生納付金の設定は妥当であると考えている(資料13)。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組は、以下の事業を軸に進めている。

1. 大学説明会の開催、進学相談会への参加
2. 高校訪問、高校内模擬授業・ガイダンスの実施
3. オープンキャンパスの実施
4. ダイレクトメールの発送
5. 大学ホームページや公式 SNS を活用した情報発信
6. 高大連携・接続授業の実施
7. 大学進学に関わる諸雑誌への情報掲載

本学では恒常的に、所属教員が高等学校を訪問し進路指導部との関係を強化するとともに、高校での模擬授業やガイダンスを実施し、学びの具体的な内容や卒業した場合の進路について、直接高校生に説明する機会を設けている。

オープンキャンパス参加者の出願率は、他の取り組みに比して高く、大学を訪問してもらい、受験生と教員・在学生が直接対話することを重視している。年間6回のオープンキャンパスを開催し、参加者の学年や時期に応じ、必要となる情報を提供し本学への興味関心を向上させている。

高大連携・接続授業の実施については、学生募集を直接の目的とするものではないが、本学の学部学科の学びや教員を直接知る重要な機会となっている。高校生だけではなく、高等学校との双方向の情報交換の機会となり、信頼関係構築に役立っている。

既述した通り、本学の志願者・入学者の構造は近畿の2府2県に集中しているため、地域ごとの募集活動を綿密に計画立てるとともに、近畿地区以外への募集活動についても、地域を選択し注力を行っている。

九州大谷短期大学における学生確保の取り組み

福祉学科では、職業訓練生制度による訓練生の受け入れや、入学金免除となる社会人入試制度の活用等、社会人の積極的な受け入れを進めている。一方で、高校生を対象に若年層の介護イメージの向上に努めるための介護コンテスト「C-1 グランプリ」を開催するなど、近隣の高等学校とも連携した広報活動を展開している。

また、長期的介護人材不足に備え、九州大谷短期大学主催で近隣の介護関係事業所や社会福祉協議会等へ呼びかけ「筑後地域介護人材養成研究会」を平成25年に設立し、筑後地方の介護人材養成について養成段階からの協力体制を築くべく取り組んでいる。今後、事業所や各市町村単位の奨学金制度の創設、「外国人介護福祉士育成プロジェクト」の参画等、具体的な方途を検討し、アクションプランとして提案、実施していく予定である。

さらに、平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しへ向け、アドミッションポリシー

に基づく「学力の 3 要素」を多面的・総合的に評価する入試制度改革をすすめている。特に、入学前教育の推進と連動した奨学金制度「スカラシップチャレンジ」並びに「リレーションシップ奨学金」を新規に導入し、学生の経済的な負担軽減を図るとともに学生の就学意欲向上も兼ねた募集力強化を図っていく予定である。これによって、入学者の 6 名に 1 名が奨学金対象者となる見込みとなり、志願者増へ繋がる具体的な取り組み策として展開していく（資料 1 4）。

【スカラシップチャレンジ】

- ①自己推薦型選抜における成績上位者の中から、入学金（200, 000 円）免除となる学生（最大 20 名）を選抜する。
- ②自己推薦型選抜、学校推薦型選抜での合格者及び一般選抜 1 期受験者の中から、授業料免除となる学生（50%免除最大 10 名・30%免除最大 20 名）を選抜する。

【リレーションシップ奨学金】

入学者選抜試験の合格者の内、在学生及び同窓生の親族に対し入学金 200, 000 円）を免除する。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

大谷大学は、学則に明示するとおり、建学の理念を実現するために、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する人物を育成することを目的としている。

この大学の目的を実現するために設置された文学部歴史学科、文学科では、人物養成に関する目的その他の教育研究上の目的をそれぞれ次のように定めている。

文学部

「歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす。」

歴史学科

「日本と世界の歴史及びそれと不可分な諸宗教・思想、とくに仏教を対象とした歴史学研究を通じて、現代社会で直面するさまざまな課題を多角的かつ的確に分析し、それに対処しうる人物の養成をめざす。」

文学科

「日本と中国の言葉や文学を研究対象とし、テキストの精読・分析・創出を通して言語感覚の錬磨と多様な知識の修得に励み、人間と社会への理解力及び洞察力を持った人物の養成をめざす。」

歴史・文学の研究は、素材となる資史料またはテキストを収集し、様々なテーマにもとづき分析し、比較検討から考察をおこない進められる。それは、現代社会で直面するさまざまな課題から導かれる問題意識を基盤におきながら、複眼的な視座で歴史や文学を客観的に観察し、明らかとなった事柄を、順序だててまとめ、文章として表現し、レポートや論文として発信する訓練を重ねていく。まとめられた成果は、演習（ゼミ）において発表され他者との議論によって止揚されていく。その繰り返しの過程を経ることにより、約2万字におよぶ卒業論文を作成し、その完成を以て学士課程〔学士（文学）〕の到達としている。

歴史学科・文学科では、専門分野の学びのプロセスを通して、社会において物事を正確に捉える力を身につけること重視している。現代社会において様々な課題に対応していくためには、思い込みではなく、相対的な観点に立ち、根拠となる情報を収集・整理し、課題を抽出し、それを分析する切り口を発見し、明らかとなった事象を、理解してもらえように取りまとめ発信する力が重要となる。両学科では、専門分野の知識・技能を身につ

けることはもちろんのこと、これらの汎用的能力を身につけ、社会に貢献し主体的によりよく生きることができる人物を育成することを目指している。

② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

平成 29 (2017) 年 5 月 1 日現在の在籍学生の出身地は、京都府 (1,108 名、35.7%) 滋賀県 (622 名、20.0%)、大阪府 (420 名、13.5%) の順に多く、地元出身、自宅からの通学生が全体の約 69% を占めている。就職エリアについては、昨今の地元志向 (自宅からの通勤可能範囲就活) もあり、平成 30 (2018) 年 3 月卒業の学生は、京都府 (32.1%)、大阪府 (20.4%) 滋賀県 (12.1%) と全体の約 65% の学生が近畿 3 府県に就職している。

平成 29 (2017) 年度 [平成 30 (2018) 年 3 月卒業生] の業種別進路決定状況を見ると、人とかかわる仕事を希望する学生が多く、文学部全体で小売業 (18.5%)、サービス業 (14.7%)、教育・学習 (13.7%)、の順に多く、他、福祉・医療 (9.8%) などとなっている。同じ年度の状況を学科別で見ると、歴史学科は、小売業 (25%)、サービス業 (14%)、教育・学習 (12%)、福祉・医療 (12%) の順となっている。また文学部は、サービス業 (23%)、小売業 (21%)、教育・学習 (17%) の順となっており、卒業生の企業での評価も高く、各所で活躍している (資料 1 5)。

一方求人数は、近年の企業・団体側の採用意欲は高く年々増加の傾向にある。平成 29 (2017) 年度は 12,507 件の求人が全国から寄せられ、平成 27 (2015) 年度求人数の 1.37 倍となっている (資料 1 6)。これは、平成 30 (2018) 年度の第 4 学年在籍学生数 708 名の約 17.7 倍の求人数が寄せられていることとなる (内、近畿地区企業・団体からの求人数は 5,140 件で、近畿圏から通学する第 4 学年在籍学生数約 500 名の 10.3 倍)。なお、企業・団体からの求人は、学部や学科を指定するものではなく大谷大学の学生として寄せられている。このことから、特に文学部においては、専門分野専門的知識や技能を求めるというよりも、専門分野の学習を高度に極めることにより身につく汎用的能力やコミュニケーション能力が評価されていると推測される。

なお、歴史学科・文学部の学科別の就職状況は、両学科とも年度により増減があるものの、内定率が 89% から 98% の間で推移し、進学等を含めた進路決定率は 67.2% から 84.7% の間で推移している (資料 1 7)。

歴史学科・文学部の卒業生は汎用的な能力を生かして幅広い業種で活躍しており、近年の企業・団体からの求人数の大幅な増加を踏まえると、歴史学科・文学部が育成する人物は、人材需要の動向等の社会に要請に応じたものであると考えている。

添付資料 目次

①地域連携室・文藝塾、パンフレット・規程等	【資料 1】
②大学全体の入試状況	【資料 2】
③歴史学科の入試状況	【資料 3】
④文学科の入試状況	【資料 4】
⑤5カ年における入学志願状況	【資料 5】
⑥資料請求者・オープンキャンパス来場者の推移	【資料 6】
⑦京都地区私立大学志願動向【歴史学系学科】	【資料 7】
⑧京都地区私立大学志願動向【文学系学科】	【資料 8】
⑨高校所在地ごとの志願・入学状況	【資料 9】
⑩18歳人口予測(近畿)	【資料 10】
⑪滋賀・京都・大阪・兵庫 2府2県の18歳人口予測	【資料 11】
⑫志願実績をもとにした滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者数シミュレーション	【資料 12】
⑬京都地区大学 文学系学部入学初年度学費等年間納付額一覧	【資料 13】
⑭九州大谷短期大学入学前教育の推進と連動した奨学金制度	【資料 14】
⑮業種別就職状況	【資料 15】
⑯業種別求人件数	【資料 16】
⑰学科別就職状況	【資料 17】

大谷大学地域連携室 コミュ・ラボを、 WEBサイト上でも 発信!

コミュ・ラボについてもっと知りたい!他にはどんな活動しているの? などなど、そんな疑問にお応えするスペシャルサイトがオープン。現在進行中のプロジェクト活動紹介はもちろん、コンセプト・ムービーや活動レポート、リアルタイムに学生たちが投稿する写真など、コミュ・ラボの魅力や地域で出会ったおもしろいをお届けしていきます。今後も、プロジェクトとともに、ますます充実していく予定です。

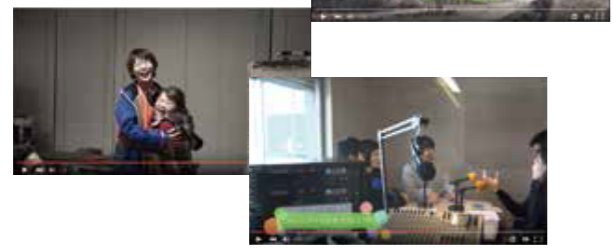


アクセスはコチラから
<http://commulabo.otani.ac.jp>



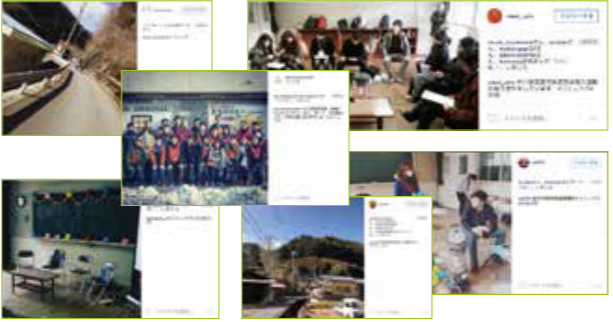
コンセプト・ムービー

コミュ・ラボの楽しさがつまったムービーが完成。地域で出会った方々、活動の様子など、コミュ・ラボの魅力を感じてみよう。



コミュ・ラボの目

学生や先生が撮影してきた写真をInstagramで投稿。見て、聞いて、触って、みつけた、みんなのベストショットをのぞいてみよう。



ぜひ、アクセス・登録してみてください。/
SNSでも発信中!
大谷大学コミュ・ラボ 検索

いいね!を押そう。 フォローしよう。 フォローしよう。





大谷大学地域連携室コミュ・ラボ @ota2co3labo @otanicommulabo

大谷大学 / 大谷大学短期大学部

文学部 眞宗学科 / 仏教学科 / 哲学科 / 社会学科 / 歴史学科 / 文学科 / 国際文化学科 / 人文情報学科 / 教育・心理学科
短期大学部 仏教科 / 幼児教育保育科

〒603-8143 京都市北区小山上総町
入学センター TEL.075-411-8114
ホームページ <http://www.otani.ac.jp/nyushi/>
E-mail nyushi-c@sec.otani.ac.jp

資料請求はこちら
<http://shingakunet.com/net/m/gakkoHome/list/detail/SC000400/>



*QRコードはスマホ専用です。デバイスによっては、読み取れない場合があります。



大学を飛び出して、 地域のおもしろいに出会おう。

ここは地域とつながる、活動拠点。
見て、聞いて、触って、
ここにしかないものを感じるから、はじめよう。

地域の暮らしを知る、地域の魅力を考える、地域の課題を解決する。
地域とつながる活動を通して、はじめての人と話し、はじめての体験をし、
学生たちは成長していきます。

さあ、コミュ・ラボで、地域のおもしろい出会い、
さまざまなアクションをしよう。

2



ABOUT Commu-Labo.

地域連携室コミュ・ラボのコミュとは、コミュニティとコミュニケーションを意味しており、その言葉の通り、地域に出て、さまざまな活動や団体、課題と出会い、対話し考えていくこと。全学科横断型の場として、大谷大学の学生であれば誰でも参加できます。地域調査・ワークショップ・イベント運営・情報発信、様々な活動を通じて、学生にとって役立つチカラと経験を身につけてもらいます。



3

Commu-Labo. TEACHER

現場に行き、生の情報に触れる大切さ。
話を聞くだけでも貴重な学びです。



社会福祉学
志藤 修史教授

担当プロジェクト：中川区の暮らし再発見プロジェクト
京都府北部福祉フィールドワークプロジェクト
東日本大震災 復興支援ボランティア大谷大学TATサポート活動

体験するだけでなく、そこから自分は何ができるのか、
何を学びたいのかへとつなげてください。



公共経営学
赤澤 清孝准教授

担当プロジェクト：祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト
コミュニティラジオプロジェクト
東日本大震災 復興支援ボランティア大谷大学TATサポート活動

PROJECT

1

中川学区の暮らし再発見プロジェクト

14世帯が住む、真弓地区。 途絶えつつある山の営みを知る。

京都市北部に位置する山間地域・中川地区。過疎化や少子化が進む中、その暮らしや風習、歴史を後世に残すために、中川学区社会福祉協議会と連携して、最少人口地区の真弓地区へ聞き取り調査をしてきました。



猟師小屋で聞き取り調査。室内には鹿の角が。



真弓地区は杉の産地としても有名。

GPS付きの猟犬「イチ」。

参加した学生の声



山間部で暮らす人のリアルな姿に触れられた。

林業チームとして聞き取り調査をするため、上茶谷さんのもとへ行きました。杉は山に勝手に生えるものだと思っていましたが、最初は畑で育て、そしてそれを30数年かけて売り物にするという話には、自分たちが当たり前に使っている木の見方がかわるきっかけになりました。後継ぎが欲しい。でも、生計を立てるのは難しい。地域の方が抱える悩みは決して一つのことでは解決するわけではないのだと改めて感じることができました。

文学部社会学科 2学年
駒井 潤輝さん



杉を植えてから販売までは30年以上かかるとか。



すごい頑丈そう...

狐で使う籠はなんとすべて手作り。

大学から車で約40分。だんだんと細くなる山道を進むと、目の前に広がるのは細長く伸びた杉の森。今回の目的地、中川学区でも最少人口地区とされる真弓地区です。到着したメンバーたちは、まず3チームに分かれて、住民の方にお話を伺いに行きました。

「むかしは数百万で売れた杉の木も、今では数十万ほど。今は自分のできる範囲だけだね」と林業を行う上茶谷さんは言います。杉の木は植えてから売れるまでは30年以上かかるのだそうです。昔は父が植えた杉を息子が売り、息子が植えた杉をまた孫が売るといふ循環

環がつづいていました。しかし、後継ぎがない今、植えても切人がいないというのが現状。「継ぐ人が欲しいけど、生計立てるのも難しいからね」と悩んでいる様子でした。

同じく、真弓地区の住民、板谷幹夫さんからは「野菜を育てても鹿に食べられるんだよね」との声。自分たちでは駆除することができないので、網をかけて入らないようにするのが精いっぱいだと。午後からは本業の傍ら、猟師としての顔を持つ南谷さんのもとへ。猟犬とともに山へ繰り出し、長い時には半日以上も山にこもると言います。「今年に入っ

てから仕留められたのはまだ数匹だけだね」とやさしい笑顔で答えてくれました。小屋の中には、鹿角や銃弾があり、聞き取り調査を行う学生たちも少し緊張した面持ちでたくさんの質問をしました。聞き取り調査を終えた後、全員で集まり、今日感じた事、聞いたことを発表。山と生きるという楽しさ、そして厳しさを一人ひとり感じた1日でした。



杉の山に囲まれた、静かな真弓地区。

PROJECT

2

京都府北部福祉フィールドワークプロジェクト

カフェ、農業、新しい取り組みで利用者さんも、働く人も、地域も元気に。

京都府の助成を受け、「地域の安心を支える仕事」の現場を訪れるツアーを実施。今回は、福祉の仕事を実際に見て理解するために、東舞鶴にある社会福祉法人「大樹会」の協力のもと、現地のさまざまな福祉の現場を見学してきました。



グループホームしょうちゃんの家は、本当のお家さながら。スタッフに、積極的に質問を投げる学生たち。

高齢者、障がい者、児童支援までトータルに行っている社会福祉法人「大樹会」の案内のもと、さまざまな福祉現場を訪れてきました。高齢者施設や児童デイサービス施設の見学にはじまり、舞鶴市役所では行政の役割を直接お聞きできる貴重な機会も。障がい者の就労の場として運営しているカフェ「BONO」や農業を営む「ウェルポート 虹」など、新しい取り組みも紹介してもらいました。最終日は、大樹会の若手職員の方との交流会を開催。実際に現場で働く人の言葉を聞き、福祉現場の今を体感できました。「想像していなかった新しい取り組みに福祉の可能性を感じた」「京都市内、自分の地元、地域特性による違いに興味を持った」など、自分の目と耳で確かめたことで福祉に対する考えが以前よりもはっきりした学生たち。自分は何がしたいのか、何をすべきなのか、それぞれの道の入り口を見つけたようでした。



観光客の方から温かい声をいただくことも。



悪天候の中でも、最後まで手は抜かない。

PROJECT 3 祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト

約60トンのごみ問題。 ボランティア活動から向きあう。

夜店や屋台の使い捨て食器をリユース食器に切り替え、ごみの減量を図る「祇園祭ごみゼロ大作戦」。活動2年目の2015年に大谷大学も初参加。学生・教職員合わせて100名余りがボランティアスタッフとして活動に取り組みました。



ご協力ありがとうございました！

笑顔で、ごみの分別方法をガイド。

毎年、国内外から多くの観光客が訪れる祇園祭。その人の多さにも圧倒されますが、夜店や屋台、コンビニなどから出るごみの量にはさらに驚かされます。2013年度、祇園祭宵山を含めた2日間に発生したごみの量は、何とおよそ60トン。そんな地域の問題に向き合ったのは、教職員を含めおよそ100名もの参加者。ボランティアスタッフとして、活動を取り仕切るリーダースタッフに付き添い、「エコステーション」での「リユース食器」の回収と、ごみ分別のガイドを行いました。

1日目は、好天に恵まれ、多くの来場者が訪れました。慣れない現場でも積極的に声を出し、ごみの分別を呼びかけました。絶えず忙しい時間帯がつづき、あっという間に終了。活動2年目ということもあり、来場者から「今年もリユース食器なんですな」「暑い中ありがとうございます」と、温かい声をかけてもらい、とても嬉しかったです。2日目は、台風の影響によりあいにくの荒天。雨が降ったり止んだりする状況の中でも、みんなレインコートを羽織りながら笑顔忘れずに活動に動きました。

京都の学生として、地域の活動に関わった経験はとても意義深いこと。今後、「祇園祭ごみゼロ大作戦」に関わることで、学生一人ひとりがこれからの地域の在り方や必要な取り組みに向き合っていきたいと思えます。

先生のコメント



もっと、たくさんの谷大生をボランティアの現場へ。

大谷大学は初めての参加でしたが、みなさん積極的に動いていたと思います。2日目はあいにくの天候でしたが、学生の顔には笑顔も見られ、本当に楽しみながら取り組めた印象です。来年度は、ぜひ運営・企画段階から加わり、コアスタッフとして主体的に活動に参加してもらえればと思います。

赤澤 清孝准教授



みんな、様になってる！



上／初潜入のラジオブースに、みんな大はしゃぎ。下／大垣書店本店4Fから、地域活動の情報を発信。

PROJECT 4 コミュニティラジオプロジェクト

学生インタビューにお店のレポート。 ラジオを活動基地に 地域を盛り上げていく。



2016年、北区に新しく生まれるコミュニティラジオ局で、コミュラボ制作の番組がスタート。コミュニティ活動の実践の場として、さまざまな情報を発信していきます。

できたばかりのラジオブースに、カラフルなマイクスタンドやミキサーやアンプなどの機材。開局に向けて準備が進んでいる北区のコミュニティラジオ局(愛称:RAIDO MIX KYOTO)へ、赤澤先生と谷大生でお邪魔してきました。場所は、大谷大学のすぐとなりにある大垣書店本店の4F。大学として番組を持つことが決まり、一足早く見学会を実施。初めて入るラジオスタジオに、最初

は緊張の様子でしたが、マイクの前になるとテンションもアップ。「番組名とか決めなくちゃ」「地域イベントやお祭りの情報も発信してみたい」「大学周辺のお店の取材とかも」と、次々にアイデアが浮かぶなど、心の準備はすでに整った模様。番組の企画はまだ構想中ですが、今後、ここRAIDO MIX KYOTOをベースにコミュラボ活動をさらに盛り上げていきます。

SUPPORT

※TATの活動プログラムに、地域連携室として協力しています。

東日本大震災 復興支援ボランティア 大谷大学TAT

被災地で出会った、 笑みと哀しみ。 話すだけでもチカラになれる。

TAT(Tomoni Ayumi Tai/Transcending All Together)活動と名付け、震災後、復興支援ボランティアを継続的に行う大谷大学。第19便となる今回は、2日間に渡って、仮設住宅での交流会や石巻市の訪問に行ってきました。



IRORI 石巻でのボランティア活動。

震災から5年。40世帯が残る仮設住宅地ニッペリアと、新たな街づくりが行われる石巻の姿を訪ねてきました。活動に参加したのは教職員含め総勢23名。「自分の足で歩き、自分の目で見てみたい」「メディアで知るだけでなく、一度は現場に訪れてみたかった」と、参加した動機はさまざまです。

仮設住宅での炊き出しと交流会では、被災体験、今の生活の様子、これからの話など、顔と顔を合わせないと決して知れないような貴重なお話を聞くことができました。2日目は、みらいサポート石巻の震災の語り部の方とともに街を巡回。「今、歩いているこの場所がこんなことになるなんて…」学生たちも、改めて震災の恐ろしさや悲惨さを感じました。その後、地元高校生がつくるいしのまきカフェ「(かぎかつこ)とオープンシェアオフィスIRORI石巻へ。ちょうど改装作業で大忙しで、谷大生もボランティアとして、壁面やガラス窓のクリーニングのお手伝いを行ってきました。

現地を巡り、出会ったのは、前を向き、イキイキと活動する地域の方々。テレビや新聞から知る被災地のイメージとは異なるものでした。実際に訪れたからこそわかる地域の、住む人の今。地域と人、人と人のつながりこそが、何物にも勝る力になることを教わった気がします。



仮設住宅の方と一緒に盛り上がる。

○地域連携室規程

2015年6月17日 制定

(設置)

第1条 大谷大学及び大谷大学短期大学部(以下「本学」という。)に、地域連携室を置く。

(目的)

第2条 地域連携室は、本学における地域連携事業を支援し、関連事業の活性化を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 地域連携室は、前条の目的を達成するために、次の業務を行う。

- (1) 地域連携を取り入れた授業の実施支援に関する事項
- (2) 本学学生の地域連携活動の支援に関する事項
- (3) その他本学が推進する地域連携活動に関する事項

(構成)

第4条 地域連携室は、次の者をもって構成する。

- (1) 地域連携室長 1名
 - (2) 地域連携室副室長 1名
 - (3) 地域連携室員 若干名
 - (4) 地域連携アドバイザー 若干名
- 2 地域連携室長は、地域連携室の管理運営に関する諸般の業務を統括する。
 - 3 地域連携室副室長は、地域連携室長を補佐し、地域連携室の管理運営に関する諸般の業務に従事する。
 - 4 地域連携室員は、地域連携室長の指示を受け、地域連携室業務に従事する。
 - 5 地域連携アドバイザーは、地域連携室長の指示を受け、地域連携室業務に従事する。
 - 6 地域連携室長は、社会学部長がこれに当たる。
 - 7 地域連携室副室長は、本学の教育職員のうちから学長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
 - 8 地域連携室員は、本学の教育職員のうちから学長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
 - 9 地域連携アドバイザーに関する事項は、別に定める。

(運営会議)

第5条 地域連携室の円滑な運営を図るため、運営会議を置く。

(運営会議の構成)

第6条 運営会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 教育・学生支援担当副学長
- (2) 研究・国際交流担当副学長
- (3) 地域連携室長
- (4) 地域連携室副室長
- (5) 地域連携室員のうち若干名
- (6) 学生支援部事務部長
- (7) 教育研究支援部事務部長
- (8) 学生支援部教務課長
- (9) 教育研究支援部教育研究支援課長

2 地域連携室長は、運営会議を招集し、その議長となる。

3 地域連携室長は、必要と認めた場合、第1項各号以外の教育職員、事務職員、学外の有識者等を出席させることができる。

(コミュ・ラボ)

第7条 地域連携室に、本学学生の地域連携活動を支援する施設として、コミュ・ラボを設置する。

2 コミュ・ラボの使用については、別に定める。

(所管)

第8条 地域連携室に関する事務の所管は、教育研究支援部教育研究支援課及び学生支援部教務課とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

付 則

この規程は、2015年6月1日に遡及して施行する。

付 則

この規程は、2018年3月1日に一部改正し、2018年4月1日から施行する。

○文藝塾規程

2015年4月15日 制定

(設置)

第1条 大谷大学及び大谷大学短期大学部(以下「本学」という。)に、文藝塾を置く。

(目的)

第2条 文藝塾は、本学学生の文藝実践力の伸張を支援し、大学教育の拡充に資することを目的とする。

(業務)

第3条 文藝塾は、前条の目的を達成するために、次の業務を行う。

- (1) 文藝実践の相談に関する事項
- (2) 文藝実践の授業に関する事項
- (3) 文藝実践の課外講座に関する事項
- (4) その他文藝実践に関する事項

(組織)

第4条 文藝塾に、次の職員を置く。

- (1) 文藝塾長 1名
 - (2) 文藝塾副長 1名
 - (3) 文藝塾委員 若干名
- 2 文藝塾長は、文藝塾の管理運営に関する諸般の業務を統括する。
 - 3 文藝塾副長は、文藝塾長を補佐し、文藝塾の運営に当たる。
 - 4 文藝塾委員は、文藝塾業務に従事する。
 - 5 文藝塾長は、本学の教職員のうちから、教育・学生支援担当副学長が推薦し、学長が委嘱する。
 - 6 文藝塾副長及び文藝塾委員に関する事項は、別に定める。
 - 7 文藝塾長、文藝塾副長、文藝塾委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(運営会議)

第5条 文藝塾の円滑な運営を図るために、運営会議を置く。

(運営会議の構成)

第6条 運営会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 教育・学生支援担当副学長
- (2) 入学センター長
- (3) 文藝塾長
- (4) 文藝塾副長

- (5) 学生支援部事務部長
- (6) 企画・入試部事務部長
- (7) 学生支援部教務課長
- (8) 企画・入試部企画課長

2 文藝塾長は、運営会議を招集し、その議長となる。

3 文藝塾長は、必要と認めた場合、第1項各号以外の教育職員、事務職員等を出席させることができる。

(利用者)

第7条 文藝塾を利用できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本学学生
- (2) 本学に入学を許可された者
- (3) 本学教育職員及び事務職員
- (4) 文藝塾長が許可した者

(所管)

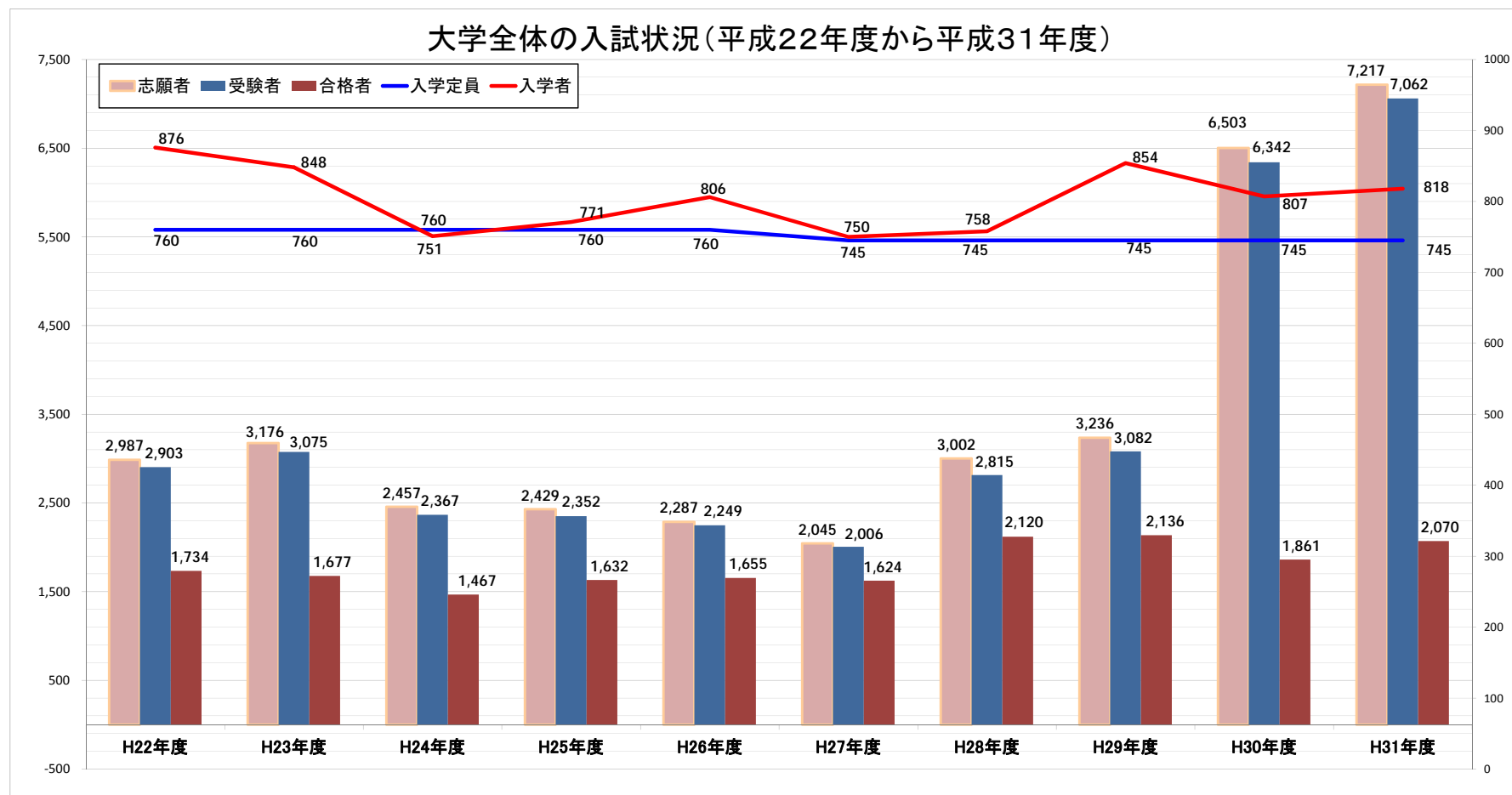
第8条 文藝塾に関する事務の所管は、学生支援部教務課及び企画・入試部企画課とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

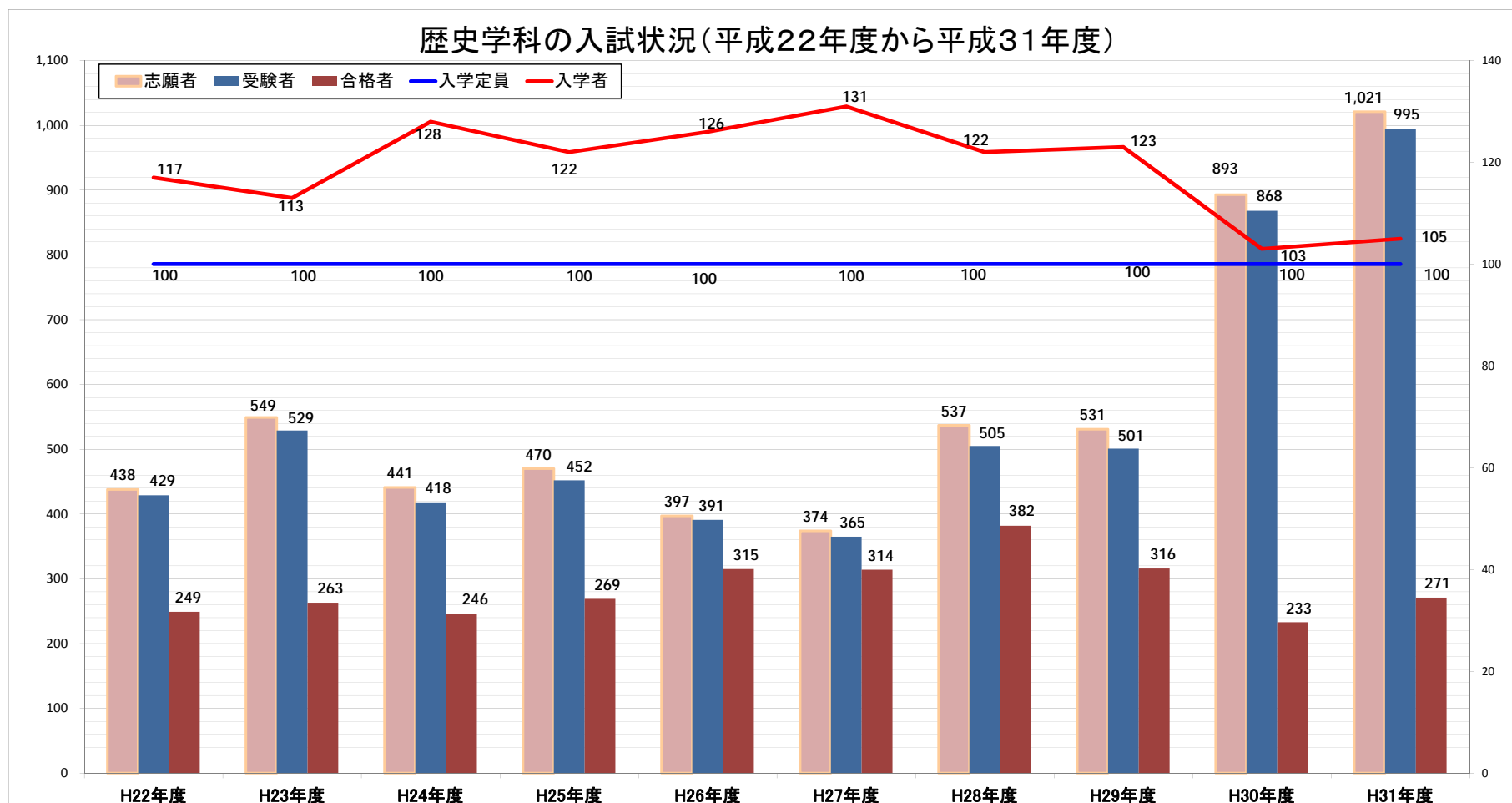
付 則

この規程は、2015年4月1日に遡及して施行する。



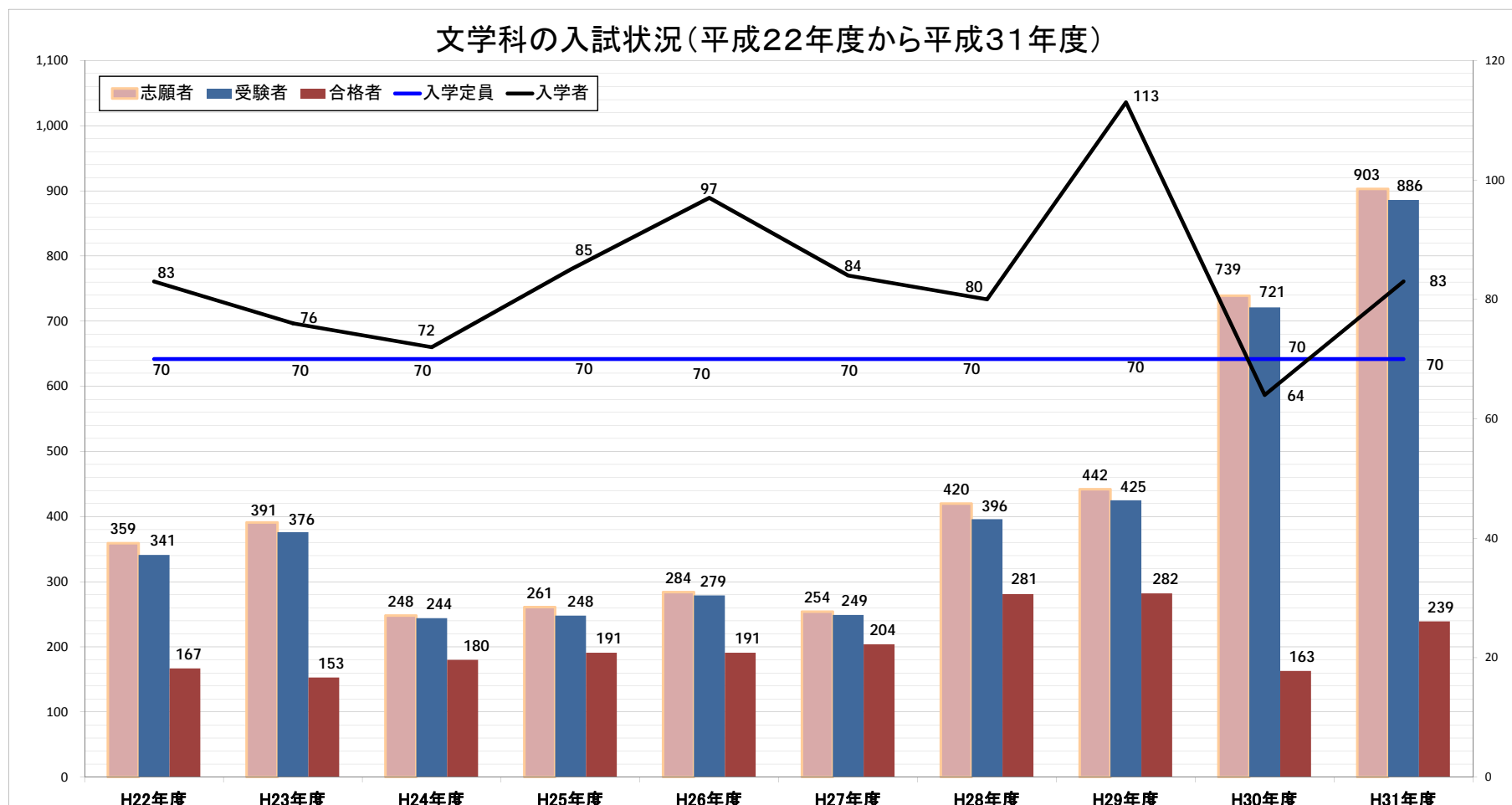
2019年4月20日現在

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入学定員	760	760	760	760	760	745	745	745	745	745
入学者	876	848	751	771	806	750	758	854	807	818
入学定員超過率	1.15	1.11	0.98	1.01	1.06	1.00	1.01	1.14	1.08	1.09



2019年4月20日現在

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入学定員	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
入学者	117	113	128	122	126	131	122	123	103	105
入学定員超過率	1.17	1.13	1.28	1.22	1.26	1.31	1.22	1.23	1.03	1.05



2019年4月20日現在

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入学定員	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
入学者	83	76	72	85	97	84	80	113	64	83
入学定員超過率	1.18	1.08	1.02	1.21	1.38	1.20	1.14	1.61	0.91	1.18

5カ年における入学志願状況
(大谷大学)

2019年04月20日

学部等名	項目	平成31年度 2019年度	平成30年度 2018年度	平成29年度 2017年度	平成28年度 2016年度	平成27年度 2015年度	平均 入学定員超過率
文学部合計	入学定員超過率	(1.08)	(1.11)	(1.14)	(1.01)	(1.00)	(1.08)
	志願者数	3,561	3,182	3,236	3,002	2,045	
	受験者数	3,483	3,106	3,082	2,815	2,006	
	合格者数	1,054	1,032	2,136	2,120	1,624	
	入学者数 入学定員	430 395	440 395	854 745	758 745	750 745	
真宗学科	入学定員超過率	(1.03)	(1.05)	(0.74)	(0.75)	(0.95)	(0.94)
	志願者数	200	153	119	106	109	
	受験者数	195	149	114	103	108	
	合格者数	122	118	100	100	104	
	入学者数 入学定員	62 60	63 60	52 70	53 70	67 70	
仏教学科	入学定員超過率	(0.84)	(1.32)	(1.88)	(0.80)	(0.80)	(1.21)
	志願者数	109	99	67	44	49	
	受験者数	106	97	64	41	47	
	合格者数	51	68	64	38	46	
	入学者数 入学定員	21 25	33 25	47 25	20 25	20 25	
哲学科	入学定員超過率	(1.20)	(1.22)	(0.81)	(0.73)	(0.56)	(0.94)
	志願者数	514	421	162	167	87	
	受験者数	504	410	153	150	85	
	合格者数	141	175	144	137	81	
	入学者数 入学定員	60 50	61 50	49 60	44 60	34 60	
社会学科 2018.04学生募集停止	入学定員超過率			(1.19)	(1.25)	(1.18)	(1.18)
	志願者数			624	627	406	
	受験者数			593	590	402	
	合格者数			365	392	299	
	入学者数 入学定員			143 120	150 120	142 120	
歴史学科	入学定員超過率	(1.05)	(1.03)	(1.23)	(1.22)	(1.31)	(1.15)
	志願者数	1,021	893	531	537	374	
	受験者数	995	868	501	505	365	
	合格者数	271	233	316	382	314	
	入学者数 入学定員	105 100	103 100	123 100	122 100	131 100	
文学科	入学定員超過率	(1.18)	(0.91)	(1.61)	(1.14)	(1.20)	(1.22)
	志願者数	903	739	442	420	254	
	受験者数	886	721	425	396	249	
	合格者数	239	163	282	281	204	
	入学者数 入学定員	83 70	64 70	113 70	80 70	84 70	
国際文化学科	入学定員超過率	(1.10)	(1.28)	(1.20)	(0.79)	(0.94)	(1.13)
	志願者数	814	877	378	312	210	
	受験者数	797	861	368	287	209	
	合格者数	230	275	337	267	198	
	入学者数 入学定員	99 90	116 90	120 100	79 100	94 100	
人文情報学科 2018.04学生募集停止	入学定員超過率			(0.98)	(0.87)	(0.59)	(0.78)
	志願者数			288	247	140	
	受験者数			278	243	136	
	合格者数			249	224	124	
	入学者数 入学定員			98 100	87 100	59 100	
教育・心理学科 2018.04学生募集停止	入学定員超過率			(1.09)	(1.23)	(1.19)	(1.14)
	志願者数			625	542	416	
	受験者数			586	500	405	
	合格者数			279	299	254	
	入学者数 入学定員			109 100	123 100	119 100	

学部等名	項目	平成31年度 2019年度	平成29年度 2018年度	平成29年度 2017年度	平成28年度 2016年度	平成27年度 2015年度	平均 入学定員超過率
社会学部合計	入学定員超過率	(1.12)	(1.03)				(1.07)
	志願者数	2,347	2,233				
	受験者数	2,289	2,179				
	合格者数	670	516				
	入学者数	248	227				
	入学定員	220	220				
現代社会学科	入学定員超過率	(1.11)	(1.03)				(1.07)
	志願者数	1,368	1,466				
	受験者数	1,334	1,435				
	合格者数	336	243				
	入学者数	134	124				
	入学定員	120	120				
コミュニティデザイン学科	入学定員超過率	(1.14)	(1.03)				(1.08)
	志願者数	979	767				
	受験者数	955	744				
	合格者数	334	273				
	入学者数	114	103				
	入学定員	100	100				

学部等名	項目	平成31年度 2019年度	平成29年度 2018年度	平成29年度 2017年度	平成28年度 2016年度	平成27年度 2015年度	平均 入学定員超過率
教育学部合計	入学定員超過率	(1.07)	(1.07)				(1.07)
	志願者数	1,309	1,088				
	受験者数	1,289	1,057				
	合格者数	346	313				
	入学者数	140	140				
	入学定員	130	130				
教育学科 初等教育コース	入学定員超過率	(1.18)	(1.22)				(1.20)
	志願者数	753	604				
	受験者数	740	589				
	合格者数	199	172				
	入学者数	59	61				
	入学定員	50	50				
教育学科 幼児教育コース	入学定員超過率	(1.01)	(0.98)				(0.99)
	志願者数	556	484				
	受験者数	549	468				
	合格者数	147	141				
	入学者数	81	79				
	入学定員	80	80				

学部等名	項目	平成31年度 2019年度	平成29年度 2018年度	平成29年度 2017年度	平成28年度 2016年度	平成27年度 2015年度	平均 入学定員超過率
大谷大学合計	入学定員超過率	(1.09)	(1.08)	(1.14)	(1.01)	(1.00)	(1.07)
	志願者数	7,217	6,503	3,236	3,002	2,045	
	受験者数	7,061	6,342	3,082	2,815	2,006	
	合格者数	2,070	1,861	2,136	2,120	1,624	
	入学者数	818	807	854	758	750	
	入学定員	745	745	745	745	745	

資料請求者の推移

	1年生	2年生	3年生	その他	合計	前年比
平成27年度	3,966	10,737	19,545	2,635	36,883	-
平成28年度	5,154	13,905	22,603	3,295	44,957	1.22
平成29年度	8,082	21,861	31,358	3,806	65,107	1.45
平成30年度	8,024	22,753	38,429	4,242	73,448	1.13

オープンキャンパス来場者の推移

	1年生	2年生	3年生	その他	合計	前年比
平成27年度	98	492	1,597	194	2,381	-
平成28年度	133	594	1,606	152	2,485	1.04
平成29年度	132	648	2,086	129	2,995	1.21
平成30年度	190	761	2,517	166	3,634	1.21

京都地区私立大学志願動向【歴史学系学科】

大学	学部	学科	募集人員				志願者数（合計）				志願倍率			
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
京都学園大学	人文学部	歴史文化学科	78	80	80	80	200	157	165	219	2.6	2.0	2.1	2.7
京都産業大学	文化学部	京都文化学科	100	100	100	100	1,750	1,670	1,464	1,983	17.5	16.7	14.6	19.8
京都女子大学	文学部	史学科	102	102	87	85	718	730	709	687	7.0	7.2	8.1	8.1
京都橘大学	文学部	歴史学科	83	83	90	100	925	910	1,325	1,923	11.1	11.0	14.7	19.2
		歴史遺産学科	46	46	50	55	551	606	965	1,555	12.0	13.2	19.3	28.3
佛教大学	歴史学部	歴史学科	85	89	90	90	1,840	1,993	1,682	1,535	21.6	22.4	18.7	17.1
		歴史文化学科	56	58	59	59	970	833	1,050	966	17.3	14.4	17.8	16.4
龍谷大学	文学部	歴史学科	162	181	197	197	3,322	3,916	3,913	4,283	20.5	21.6	19.9	21.7
大谷大学	文学部	歴史学科	100	100	100	100	374	537	893	1,021	3.7	5.4	8.9	10.2
合 計			812	839	853	866	10,650	11,352	12,166	14,172	13.1	13.5	14.3	16.4

京都地区私立大学志願動向【文学系学科】

大学	学部	学科	募集人員				志願者数（合計）				志願倍率			
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
京都女子大学	文学部	国文学科	109	109	95	94	910	851	978	799	8.3	7.8	10.3	8.5
京都橘大学	文学部	日本語日本文学科	70	70	70	85	625	658	978	1,506	8.9	9.4	14.0	17.7
佛教大学	文学部	日本文学科	93	93	98	98	1,526	1,497	1,365	1,592	16.4	16.1	13.9	16.2
龍谷大学	文学部	日本語日本文学科	74	70	74	74	2,049	2,041	1,905	2,259	27.7	29.2	25.7	30.5
大谷大学	文学部	文学科	70	70	70	70	254	420	442	739	3.6	6.0	6.3	10.6
合 計			416	412	407	421	5,364	5,467	5,668	6,895	12.9	13.3	13.9	16.4

高校所在地ごとの志願状況【大谷大学】

2019年4月20日現在

地域	県名	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		前年比	5ヶ年平均
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
北海道		38	1.9%	38	1.3%	54	1.7%	78	1.2%	97	1.3%	124.4%	61.0
東北	青森	2	0.1%	3	0.1%	2	0.1%	4	0.1%	2	0.0%	50.0%	2.6
	岩手	5	0.2%	1	0.0%	3	0.1%	4	0.1%	3	0.0%	75.0%	3.2
	宮城	1	0.0%	4	0.1%	2	0.1%	1	0.0%	3	0.0%	300.0%	2.2
	秋田	1	0.0%	3	0.1%	2	0.1%	7	0.1%	1	0.0%	14.3%	2.8
	山形	2	0.1%	2	0.1%	7	0.2%	3	0.0%	10	0.1%	333.3%	4.8
	福島	4	0.2%	2	0.1%	3	0.1%	1	0.0%	3	0.0%	300.0%	2.6
小計		15	0.7%	15	0.5%	19	0.6%	20	0.3%	22	0.3%	110.0%	18.2
関東	茨城	7	0.3%	6	0.2%	7	0.2%	22	0.3%	26	0.4%	118.2%	13.6
	栃木	1	0.0%	13	0.4%	1	0.0%	4	0.1%	8	0.1%	200.0%	5.4
	群馬	6	0.3%	3	0.1%	16	0.5%	2	0.0%	6	0.1%	300.0%	6.6
	埼玉	1	0.0%	3	0.1%	0	0.0%	14	0.2%	7	0.1%	50.0%	5.0
	千葉	1	0.0%	11	0.4%	3	0.1%	18	0.3%	23	0.3%	127.8%	11.2
	東京	10	0.5%	13	0.4%	18	0.6%	15	0.2%	28	0.4%	186.7%	16.8
	神奈川	1	0.0%	5	0.2%	4	0.1%	24	0.4%	7	0.1%	29.2%	8.2
	小計		27	1.3%	54	1.8%	49	1.5%	99	1.5%	105	1.5%	106.1%
甲信越	新潟	35	1.7%	43	1.4%	27	0.8%	45	0.7%	73	1.0%	162.2%	44.6
	山梨	3	0.1%	0	0.0%	11	0.3%	32	0.5%	14	0.2%	43.8%	12.0
	長野	9	0.4%	13	0.4%	24	0.7%	21	0.3%	69	1.0%	328.6%	27.2
	小計		47	2.3%	56	1.9%	62	1.9%	98	1.5%	156	2.2%	159.2%
北陸	富山	27	1.3%	14	0.5%	17	0.5%	49	0.8%	27	0.4%	55.1%	26.8
	石川	31	1.5%	50	1.7%	36	1.1%	53	0.8%	68	0.9%	128.3%	47.6
	福井	22	1.1%	28	0.9%	46	1.4%	55	0.8%	96	1.3%	174.5%	49.4
	小計		80	3.9%	92	3.1%	99	3.1%	157	2.4%	191	2.6%	121.7%
東海	岐阜	20	1.0%	26	0.9%	38	1.2%	34	0.5%	58	0.8%	170.6%	35.2
	静岡	25	1.2%	46	1.5%	35	1.1%	100	1.5%	59	0.8%	59.0%	53.0
	愛知	15	0.7%	46	1.5%	47	1.5%	66	1.0%	78	1.1%	118.2%	50.4
	三重	26	1.3%	27	0.9%	33	1.0%	69	1.1%	92	1.3%	133.3%	49.4
	小計		86	4.2%	145	4.8%	153	4.8%	269	4.1%	287	4.0%	106.7%
近畿	滋賀	408	20.0%	617	20.6%	720	22.5%	1,404	21.6%	1,712	23.7%	121.9%	972.2
	京都	618	30.3%	1,058	35.3%	1,059	33.0%	2,526	38.9%	2,292	31.8%	90.7%	1510.6
	大阪	283	13.9%	401	13.4%	425	13.3%	820	12.6%	1,104	15.3%	134.6%	606.6
	兵庫	110	5.4%	136	4.5%	162	5.1%	284	4.4%	333	4.6%	117.3%	205.0
	奈良	50	2.5%	81	2.7%	89	2.8%	162	2.5%	169	2.3%	104.3%	110.2
	和歌山	26	1.3%	51	1.7%	24	0.7%	66	1.0%	65	0.9%	98.5%	46.4
	小計		1,495	73.4%	2,344	78.2%	2,479	77.3%	5,262	81.1%	5,675	78.6%	107.8%
中国	鳥取	24	1.2%	24	0.8%	10	0.3%	38	0.6%	24	0.3%	63.2%	24.0
	島根	19	0.9%	13	0.4%	12	0.4%	26	0.4%	26	0.4%	100.0%	19.2
	岡山	17	0.8%	22	0.7%	21	0.7%	31	0.5%	96	1.3%	309.7%	37.4
	広島	39	1.9%	24	0.8%	39	1.2%	54	0.8%	92	1.3%	170.4%	49.6
	山口	12	0.6%	20	0.7%	14	0.4%	57	0.9%	48	0.7%	84.2%	30.2
	小計		111	5.4%	103	3.4%	96	3.0%	206	3.2%	286	4.0%	138.8%
四国	徳島	8	0.4%	6	0.2%	21	0.7%	26	0.4%	46	0.6%	176.9%	21.4
	香川	10	0.5%	7	0.2%	9	0.3%	37	0.6%	74	1.0%	200.0%	27.4
	愛媛	14	0.7%	27	0.9%	37	1.2%	33	0.5%	57	0.8%	172.7%	33.6
	高知	23	1.1%	13	0.4%	23	0.7%	24	0.4%	34	0.5%	141.7%	23.4
	小計		55	2.7%	53	1.8%	90	2.8%	120	1.8%	211	2.9%	175.8%
九州・沖縄	福岡	15	0.7%	23	0.8%	11	0.3%	38	0.6%	39	0.5%	102.6%	25.2
	佐賀	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	13	0.2%	11	0.2%	84.6%	5.6
	長崎	3	0.1%	8	0.3%	4	0.1%	5	0.1%	15	0.2%	300.0%	7.0
	熊本	8	0.4%	7	0.2%	8	0.2%	10	0.2%	3	0.0%	30.0%	7.2
	大分	13	0.6%	7	0.2%	9	0.3%	25	0.4%	8	0.1%	32.0%	12.4
	宮崎	7	0.3%	2	0.1%	3	0.1%	7	0.1%	6	0.1%	85.7%	5.0
	鹿児島	13	0.6%	16	0.5%	9	0.3%	9	0.1%	25	0.3%	277.8%	14.4
	沖縄	1	0.0%	4	0.1%	6	0.2%	16	0.2%	19	0.3%	118.8%	9.2
小計		62	3.0%	69	2.3%	50	1.6%	123	1.9%	126	1.7%	102.4%	86.0
その他(高等学校以外)		21	1.0%	27	0.9%	54	1.7%	58	0.9%	61	0.8%	105.2%	44.2
合計		2,037	100.0%	2,996	100.0%	3,205	100.0%	6,490	100.0%	7,217	100.0%	111.2%	4389.0

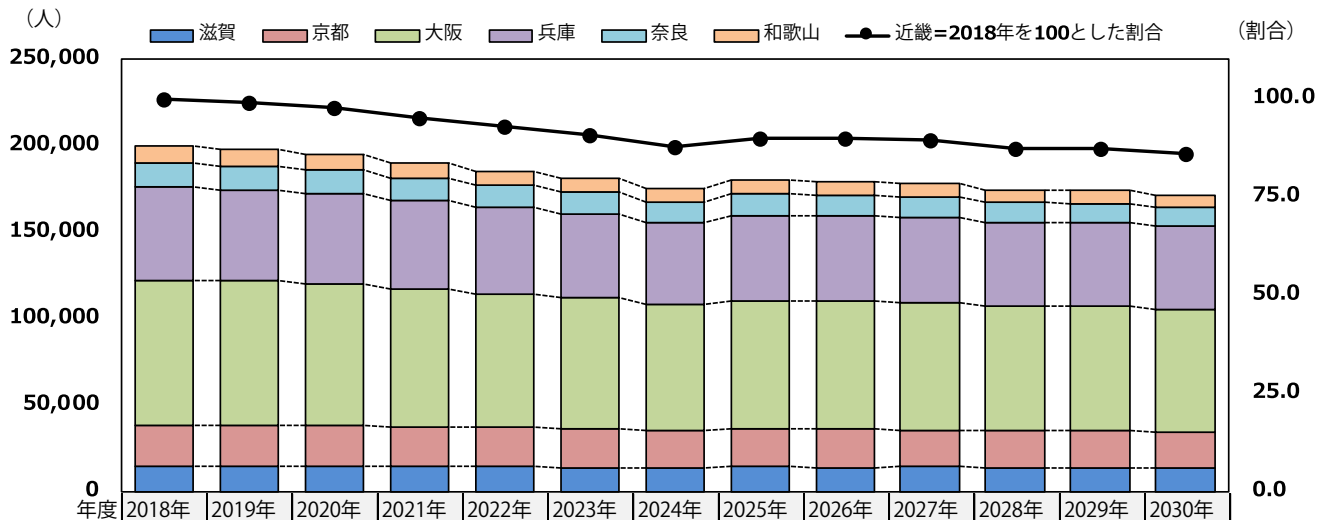
5,441 95.9%

高校所在地ごとの入学状況【大谷大学】

2019年4月20日現在

地域	県名	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		前年比	5ヶ年平均
北海道		14	1.9%	18	2.4%	18	2.1%	16	2.0%	12	1.5%	75.0%	15.6
東北	青森	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	N/A	0.4
	岩手	2	0.3%	1	0.1%	2	0.2%	1	0.1%	2	0.2%	200.0%	1.6
	宮城	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	N/A	0.6
	秋田	0	0.0%	2	0.3%	1	0.1%	3	0.4%	0	0.0%	0.0%	1.2
	山形	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%	200.0%	1.0
	福島	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	N/A	0.6
	小計	6	0.8%	6	0.8%	5	0.6%	5	0.6%	5	0.6%	100.0%	5.4
関東	茨城	1	0.1%	2	0.3%	1	0.1%	3	0.4%	3	0.4%	100.0%	2.0
	栃木	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	N/A	0.4
	群馬	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	N/A	0.6
	埼玉	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0.0%	0.4
	千葉	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.4%	N/A	0.8
	東京	3	0.4%	5	0.7%	3	0.4%	3	0.4%	5	0.6%	166.7%	3.8
	神奈川	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%	1	0.1%	3	0.4%	300.0%	1.6
小計	6	0.8%	10	1.3%	7	0.8%	8	1.0%	17	2.1%	212.5%	9.6	
甲信越	新潟	11	1.5%	7	0.9%	11	1.3%	8	1.0%	7	0.9%	87.5%	8.8
	山梨	2	0.3%	0	0.0%	2	0.2%	5	0.6%	2	0.2%	40.0%	2.2
	長野	4	0.5%	5	0.7%	5	0.6%	1	0.1%	13	1.6%	1300.0%	5.6
小計	17	2.3%	12	1.6%	18	2.1%	14	1.7%	22	2.7%	157.1%	16.6	
北陸	富山	7	0.9%	4	0.5%	5	0.6%	4	0.5%	4	0.5%	100.0%	4.8
	石川	14	1.9%	11	1.5%	10	1.2%	9	1.1%	9	1.1%	100.0%	10.6
	福井	6	0.8%	7	0.9%	11	1.3%	10	1.2%	12	1.5%	120.0%	9.2
小計	27	3.6%	22	2.9%	26	3.0%	23	2.9%	25	3.1%	108.7%	24.6	
東海	岐阜	10	1.3%	5	0.7%	9	1.1%	5	0.6%	13	1.6%	260.0%	8.4
	静岡	4	0.5%	8	1.1%	7	0.8%	4	0.5%	9	1.1%	225.0%	6.4
	愛知	7	0.9%	17	2.2%	16	1.9%	13	1.6%	11	1.3%	84.6%	12.8
	三重	9	1.2%	7	0.9%	14	1.6%	7	0.9%	12	1.5%	171.4%	9.8
小計	30	4.0%	37	4.9%	46	5.4%	29	3.6%	45	5.5%	155.2%	37.4	
近畿	滋賀	136	18.1%	153	20.2%	187	21.9%	183	22.7%	156	19.1%	85.2%	163.0
	京都	277	36.9%	275	36.3%	323	37.8%	315	39.0%	273	33.4%	86.7%	292.6
	大阪	108	14.4%	108	14.2%	96	11.2%	109	13.5%	125	15.3%	114.7%	109.2
	兵庫	36	4.8%	31	4.1%	36	4.2%	20	2.5%	26	3.2%	130.0%	29.8
	奈良	17	2.3%	20	2.6%	28	3.3%	21	2.6%	23	2.8%	109.5%	21.8
	和歌山	7	0.9%	11	1.5%	5	0.6%	14	1.7%	6	0.7%	42.9%	8.6
小計	581	77.5%	598	78.9%	675	79.0%	662	82.0%	609	74.4%	92.0%	625.0	
中国	鳥取	3	0.4%	2	0.3%	2	0.2%	2	0.2%	0	0.0%	0.0%	1.8
	島根	2	0.3%	4	0.5%	2	0.2%	3	0.4%	3	0.4%	100.0%	2.8
	岡山	6	0.8%	3	0.4%	3	0.4%	2	0.2%	7	0.9%	350.0%	4.2
	広島	6	0.8%	4	0.5%	6	0.7%	4	0.5%	9	1.1%	225.0%	5.8
	山口	4	0.5%	3	0.4%	1	0.1%	3	0.4%	6	0.7%	200.0%	3.4
小計	21	2.8%	16	2.1%	14	1.6%	14	1.7%	25	3.1%	178.6%	18.0	
四国	徳島	5	0.7%	1	0.1%	4	0.5%	1	0.1%	6	0.7%	600.0%	3.4
	香川	4	0.5%	2	0.3%	4	0.5%	3	0.4%	8	1.0%	266.7%	4.2
	愛媛	5	0.7%	4	0.5%	7	0.8%	4	0.5%	7	0.9%	175.0%	5.4
	高知	7	0.9%	2	0.3%	4	0.5%	6	0.7%	7	0.9%	116.7%	5.2
小計	21	2.8%	9	1.2%	19	2.2%	14	1.7%	28	3.4%	200.0%	18.2	
九州・沖縄	福岡	6	0.8%	8	1.1%	6	0.7%	7	0.9%	7	0.9%	100.0%	6.8
	佐賀	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.2%	3	0.4%	-	1.4
	長崎	1	0.1%	2	0.3%	2	0.2%	1	0.1%	3	0.4%	300.0%	1.8
	熊本	4	0.5%	2	0.3%	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	100.0%	2.4
	大分	3	0.4%	3	0.4%	2	0.2%	3	0.4%	3	0.4%	100.0%	2.8
	宮崎	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.2%	N/A	1.0
	鹿児島	4	0.5%	6	0.8%	5	0.6%	2	0.2%	3	0.4%	150.0%	4.0
	沖縄	0	0.0%	2	0.3%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.4%	N/A	1.2
小計	20	2.7%	25	3.3%	19	2.2%	17	2.1%	26	3.2%	152.9%	21.4	
その他(高等学校以外)		7	0.9%	5	0.7%	7	0.8%	5	0.6%	4	0.5%	80.0%	5.6
合計		750	100.0%	758	100.0%	854	100.0%	807	100.0%	818	100.0%	101.4%	797.4

580 95.2%



	年度	人数												割合													
		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
近畿	人数	199,747	197,547	195,001	189,786	185,555	181,453	175,469	179,758	179,609	178,376	174,494	174,161	171,661	100.0	98.9	97.6	95.0	92.9	90.8	87.8	90.0	89.9	89.3	87.4	87.2	85.9
	割合																										
滋賀	人数	14,411	14,350	14,535	14,299	14,013	13,769	13,322	13,878	13,797	13,875	13,669	13,664	13,486	100.0	99.6	100.9	99.2	97.2	95.5	92.4	96.3	95.7	96.3	94.9	94.8	93.6
	割合																										
京都	人数	24,120	24,095	23,646	23,146	22,654	22,292	22,222	22,002	21,802	21,601	21,144	21,083	20,714	100.0	99.9	98.0	96.0	93.9	92.4	92.1	91.2	90.4	89.6	87.7	87.4	85.9
	割合																										
大阪	人数	83,780	83,004	81,797	79,457	77,445	75,810	72,723	74,656	74,713	74,111	72,708	72,562	71,415	100.0	99.1	97.6	94.8	92.4	90.5	86.8	89.1	89.2	88.5	86.8	86.6	85.2
	割合																										
兵庫	人数	53,848	53,233	52,305	51,267	49,982	49,030	47,243	49,243	49,327	49,254	47,898	48,166	47,397	100.0	98.9	97.1	95.2	92.8	91.1	87.7	91.4	91.6	91.5	89.0	89.4	88.0
	割合																										
奈良	人数	13,893	13,375	13,435	12,808	12,855	12,417	12,017	12,053	12,026	11,582	11,450	11,191	11,067	100.0	96.3	96.7	92.2	92.5	89.4	86.5	86.8	86.6	83.4	82.4	80.6	79.7
	割合																										
和歌山	人数	9,695	9,490	9,283	8,809	8,606	8,135	7,942	7,926	7,944	7,953	7,625	7,495	7,582	100.0	97.9	95.8	90.9	88.8	83.9	81.9	81.8	81.9	82.0	78.6	77.3	78.2
	割合																										
全国	人数	1,179,808	1,174,801	1,167,348	1,136,822	1,120,783	1,096,654	1,061,763	1,091,093	1,092,747	1,084,391	1,068,454	1,066,320	1,048,163	100.0	99.6	98.9	96.4	95.0	93.0	90.0	92.5	92.6	91.9	90.6	90.4	88.8
	割合																										

- ① 18歳人口概算は、文部科学省学校基本調査より、以下のとおり定義して算出した。
 ※全体：平成30年度（2018年）速報値、男女：平成29年度（2017年）確報値
 ・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業生および中等教育学校前期課程修了者数
 ・ 中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者　すべて含む
- ② 表内の「年度」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「割合」とは、グラフ開始年度の値を100とおいた際の増減を示す。

滋賀・京都・大阪・兵庫 2府2県の18歳人口予測

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
近畿 18歳人口	199,747	197,547	195,001	189,786	185,555	181,453	175,469	179,758	179,609	178,376	174,494	174,161	171,661
前年対比 増減数	-	-2,200	-2,546	-5,215	-4,231	-4,102	-5,984	4,289	-149	-1,233	-3,882	-333	-2,500
19対比 増減数	-	-	-2,546	-7,761	-11,992	-16,094	-22,078	-17,789	-17,938	-19,171	-23,053	-23,386	-25,886
19対比 割合	-	100.0%	98.7%	96.1%	93.9%	91.9%	88.8%	91.0%	90.9%	90.3%	88.3%	88.2%	86.9%

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
滋賀 18歳人口	14,411	14,350	14,535	14,299	14,013	13,769	13,322	13,878	13,797	13,875	13,669	13,664	13,486
京都 18歳人口	24,120	24,095	23,646	23,146	22,654	22,292	22,222	22,002	21,802	21,601	21,144	21,083	20,714
大阪 18歳人口	83,780	83,004	81,797	79,457	77,445	75,810	72,723	74,656	74,713	74,111	72,708	72,562	71,415
兵庫 18歳人口	53,848	53,233	52,305	51,267	49,982	49,030	47,243	49,243	49,327	49,254	47,898	48,166	47,397
合計	176,159	174,682	172,283	168,169	164,094	160,901	155,510	159,779	159,639	158,841	155,419	155,475	153,012
前年対比 増減数	-	-1,477	-2,399	-4,114	-4,075	-3,193	-5,391	4,269	-140	-798	-3,422	56	-2,463
19対比 増減数	-	-	-2,399	-6,513	-10,588	-13,781	-19,172	-14,903	-15,043	-15,841	-19,263	-19,207	-21,670
19対比 割合	-	100.0%	98.6%	96.3%	93.9%	92.1%	89.0%	91.5%	91.4%	90.9%	89.0%	89.0%	87.6%
			-1.4%	-3.7%	-6.1%	-7.9%	-11.0%	-8.5%	-8.6%	-9.1%	-11.0%	-11.0%	-12.4%

リクルート進学総研「マーケットレポート」から転載。滋賀・京都・大阪・兵庫の2府2県を抽出。

2018・2019年度志願実績をもとにした滋賀・京都・大阪・兵庫からの志願者数シミュレーション

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
滋賀 18歳人口	14,411	14,350	14,535	14,299	14,013	13,769	13,322	13,878	13,797	13,875	13,669	13,664	13,486
志願者	1,404	1,712	1,575	1,550	1,519	1,492	1,444	1,504	1,495	1,504	1,481	1,481	1,461
割合	9.74%	11.93%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%	10.84%
18・19の 平均値	10.84%												

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
京都 18歳人口	24,120	24,095	23,646	23,146	22,654	22,292	22,222	22,002	21,802	21,601	21,144	21,083	20,714
志願者	2,526	2,292	2,363	2,313	2,264	2,228	2,221	2,199	2,179	2,158	2,113	2,107	2,070
割合	10.47%	9.51%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%	9.99%
18・19の 平均値	9.99%												

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
大阪 18歳人口	83,780	83,004	81,797	79,457	77,445	75,810	72,723	74,656	74,713	74,111	72,708	72,562	71,415
志願者	820	1,104	944	917	894	875	840	862	862	856	839	838	824
割合	0.98%	1.33%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%	1.15%
18・19の 平均値	1.15%												

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
兵庫 18歳人口	53,848	53,233	52,305	51,267	49,982	49,030	47,243	49,243	49,327	49,254	47,898	48,166	47,397
志願者	284	333	302	296	288	283	272	284	284	284	276	278	273
割合	0.53%	0.63%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%	0.58%
18・19の 平均値	0.58%												

	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)	平成38年度 (2026)	平成39年度 (2027)	平成40年度 (2028)	平成41年度 (2029)	平成42年度 (2030)
志願者	5,034	5,441	5,184	5,075	4,964	4,877	4,776	4,848	4,821	4,802	4,710	4,703	4,629
前年対比 増減数	-	407	-257	-109	-111	-87	-101	72	-28	-19	-92	-7	-74
19対比 増減数	-	-	-257	-366	-477	-564	-665	-593	-620	-639	-731	-738	-812
19対比 割合	-	100.0%	95.3%	93.3%	91.2%	89.6%	87.8%	89.1%	88.6%	88.2%	86.6%	86.4%	85.1%
			-4.7%	-6.7%	-8.8%	-10.4%	-12.2%	-10.9%	-11.4%	-11.8%	-13.4%	-13.6%	-14.9%

京都地区大学 文学系学部 入学初年度学費等年間納付額(2019年度)一覧

大学	学部	学科	入学初年度年間納付額(学費)			
			入学金	授業料	施設設備費 教育充実費	総額
【参考】私立大学等の 平成29年度入学者に係る 学生納付金等調査結果	人 文	-	242,942	700,825	167,297	1,111,064
大谷大学	文学部	歴史学科、文学科	250,000	840,000	100,000	1,190,000
龍谷大学	文学部	歴史学科、日本語日本文学科	200,000	761,000	60,000	1,021,000
京都先端科学大学	人文学部	歴史文化学科	260,000	724,000	60,000	1,044,000
京都産業大学	文化学部	京都文化学科	270,000	788,000	108,000	1,166,000
種智院大学	人文学部	仏教学科	200,000	750,000	220,000	1,170,000
京都橘大学	文学部	日本語日本文学科、歴史学科	200,000	944,000	50,000	1,194,000
同志社大学	文学部	文化史学科、国文学科	200,000	855,000	149,000	1,204,000
京都橘大学	文学部	歴史遺産学科	200,000	944,000	70,000	1,214,000
花園大学	文学部	日本史学科、日本文学科	200,000	826,000	220,000	1,246,000
佛教大学	文学部、歴史学部	日本文学科、人文学科、歴史学科、歴史文化学科	170,000	900,000	200,000	1,270,000
京都女子大学	文学部	国文学科、史学科	250,000	780,000	250,000	1,280,000
京都精華大学	人文学部	総合人文学科	200,000	1,086,000	-	1,286,000
京都ノートルダム女子大学	人間文化学部	人間文化学科	280,000	750,000	380,000	1,410,000
立命館大学	文学部	人文学科(日本文学研究学域、日本史研究学域)	300,000	1,243,000	-	1,543,000

* 各大学の入学試験要項等を参照し本学が作成した

◆ 大谷リレーションシップ奨学金

開学以来、50年の歩みの中で本学を巣立った学生や、真宗大谷派寺院の寺族・門徒の皆様を支えられ、九州大谷短期大学は2020年度に開学50周年を迎えます。

人と人のつながりを大切に、新たな出遇いを通して、本学と本学に関わる人の発展を願って新しい奨学金制度を設けました。

次のいずれかに該当する方は、入学者選抜試験合格後に手続きを行うと入学金が免除になります。



入学金 免除 ¥0

手続き

- 入学者選抜試験に合格後、入学金免除申請書を入学手続期限内に提出してください。詳細は学生募集要項を参照ください。
- 入学金免除申請書には、①の場合は真宗大谷派寺院住職の押印、②の場合は同窓生の卒業証明書及び3親等以内の親族を証明する書類、③の場合は在学生の在学証明書及び3親等以内の親族を証明する書類のいずれかが必要になります。 ※この制度でいう「真宗大谷派寺院」とは、宗教法人「真宗大谷派」を包括団体とする寺院です。

入学金・納付金

●入学金 200,000円

※金額は2019年度入学生の実績です。

●学費

	前期	後期	備考
授業料	320,000円	320,000円	前期の授業料と施設設備費は入学手続期限内に納入していただきます。
施設設備費	125,000円	125,000円	
冷暖房費	4,000円	3,000円	
計	449,000円	448,000円	

●課程履修費等

	前期	後期	備考
仏教学科	27,000円	73,000円	学科ごとに金額と内容が異なる諸費用です。学科実習費、研修旅費、公演費用等が含まれます。
表現学科(演劇放送)	54,000円	34,000円	
表現学科(情報司書)	52,000円	24,000円	
幼児教育学科	26,600円	25,500円	
福祉学科	20,500円	17,700円	

●委託徴収金

	前期	後期	備考
諸会費	45,000円	25,000円	学生自治会費、学生会費、後援会費等

※上記のほか、教科書・教材購入費が別途必要です。

◆ スカラシップ・チャレンジ

九州大谷短期大学は、向学心に富み優れた資質を持ちながら、経済的な事情で学業を継続することが困難な学生を支援します。

①入学金免除 自己推薦型選抜における成績上位者の中から、入学金免除となる学生を選抜する制度です。

奨学金の給付額及び採用人数

	入学金20万円
仏教学科	2名以内
表現学科演劇放送フィールド	5名以内
表現学科情報司書フィールド	2名以内
幼児教育学科	7名以内
福祉学科	2名以内

◎応募方法/自己推薦型選抜への志願を応募とみなします

◎選抜方法/自己推薦型選抜における、学科・フィールド別に設ける一定基準以上の成績上位者

◎採用後の手続き/入学金免除申請書に家計基準に該当している証明書を添付し提出※1

②授業料免除 自己推薦型選抜、学校推薦選抜での合格者(入学手続完了者)および一般選抜1期受験者の中から、授業料免除となる学生を選抜する制度です。

奨学金の給付額及び採用人数

	授業料 50%	授業料 30%
仏教学科	1名以内	1名以内
表現学科演劇放送フィールド	2名以内	6名以内
表現学科情報司書フィールド	1名以内	1名以内
幼児教育学科	5名以内	10名以内
福祉学科	1名以内	2名以内

◎応募方法及び期間/自己推薦型選抜又は学校推薦選抜に合格後、スカラシップ・チャレンジエントリーシートを一般選抜の出願締め切り日までに提出 ※一般選抜1期の受験者は、スカラシップ・チャレンジに応募したものとみなします。

◎選抜方法/一般選抜と同じ教科・科目にて実施します(面接・書類審査を除く)

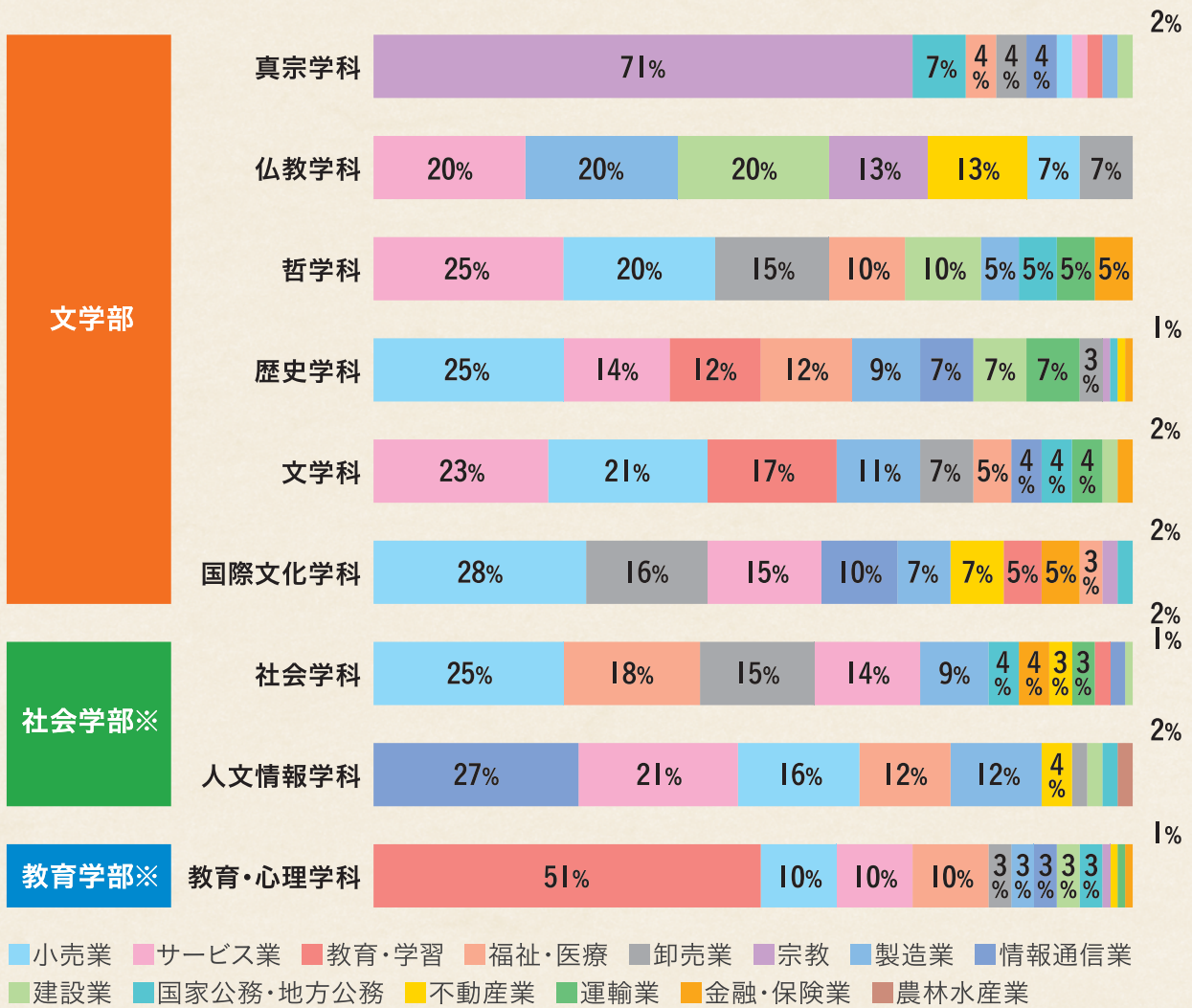
◎採用後の手続き/授業料免除申請書に家計基準に該当している証明書を添付し提出※1

◎採用は1年間です。1年次の後期授業料納付時に免除します。2年次では改めて、1年次の成績状況等から選抜が行われます。

※コミュニケーション型選抜の合格者及び社会人選抜の受験者は対象外となります。

※1 採用にあたっては、家計基準の上限(給与所得者は841万円以下、給与所得者以外355万円以下)があります。「家計基準」の金額とは、学生本人の父母又はこれに代わって家計を支えている者(主たる家計支持者1人)の収入金額をいい、「給与所得者」にあつては減免対象者を判断する直近の源泉徴収票の支払金額とし、「給与所得者以外」にあつては確定申告書の所得金額とする。

業種別就職状況 (2017年度)



※社会学部については2017年度文学部社会学科および人文情報学科の状況、教育学部については2017年度文学部教育・心理学科の状況を記載しています。

業種別求人件数の推移

年度	農業・林業	建設業・ 不動産業	製造業	電気・ガス 水道業	情報 通信業	運輸業
平成27年度 (2015)	12	569	873	33	2,293	211
平成28年度 (2016)	37	1,114	1,454	12	1,529	344
平成29年度 (2017)	31	1,134	1,554	16	1,545	345

卸売業	小売業	金融・ 保険業	サービス業	教育・学習	医療・ 社会福祉	国家公務員 地方公務員	合計	増加率
908	622	243	1,216	490	1,219	456	9,145	-
1,392	1,379	220	1,778	555	2,103	85	12,002	1.31
1,436	1,371	191	1,831	671	2,277	105	12,507	1.04

学科別就職状況

年度	区分	真宗	仏教	哲	社会	歴史	文学	国際文化	人文情報	教育・心理	全体
平成26年度 (2014)	卒業者	82	40	52	114	91	59	95	87	98	718
	就職希望者	55	29	35	95	66	47	74	74	80	555
	就職者	54	25	32	91	61	45	67	67	80	522
	内定率	98.2%	86.2%	91.4%	95.8%	92.4%	95.7%	90.5%	90.5%	100.0%	94.1%
	進路決定率	84.1%	70.0%	67.3%	81.6%	74.7%	84.7%	76.8%	78.2%	82.7%	78.7%
平成27年度 (2015)	卒業者	67	36	46	98	109	61	72	78	102	669
	就職希望者	42	23	31	83	76	43	55	62	95	510
	就職者	42	22	30	81	68	41	53	62	95	494
	内定率	100.0%	95.7%	96.8%	97.6%	89.5%	95.3%	96.4%	100.0%	100.0%	96.9%
	進路決定率	85.1%	75.0%	71.7%	87.8%	67.9%	67.2%	77.8%	79.5%	93.1%	79.4%
平成28年度 (2016)	卒業者	55	20	44	123	112	74	94	68	96	686
	就職希望者	37	14	24	108	81	58	75	57	84	538
	就職者	36	14	21	105	75	54	71	51	84	511
	内定率	97.3%	100.0%	87.5%	97.2%	92.6%	93.1%	94.7%	89.5%	100.0%	95.0%
	進路決定率	85.5%	100.0%	56.8%	87.8%	73.2%	75.7%	76.6%	75.0%	88.5%	79.6%
平成29年度 (2017)	卒業者	65	18	32	110	97	78	73	77	103	653
	就職希望者	47	15	21	99	77	55	63	60	90	527
	就職者	47	15	20	98	76	53	60	51	90	510
	内定率	100.0%	100.0%	95.2%	99.0%	98.7%	96.4%	95.2%	85.0%	100.0%	96.8%
	進路決定率	98.5%	94.4%	71.9%	90.9%	80.4%	69.2%	84.9%	68.8%	89.3%	83.2%